第 12 回 佐用町議会(定例)会議録 (第 5 日)

平成 19 年 3 月 26 日 (月 曜 日)

出席議員 (22 名)	1 番	石 堂 基	2 番	新 田 俊 一
	3 番	片 山 武 憲	4 番	岡 本 義 次
	5 番	笹 田 鈴 香	6 番	金 谷 英 志
	7 番	松 尾 文 雄	8 番	井 上 洋 文
	9 番	敏 森 正 勝	10 番	高 木 照 雄
	11 番	山 本 幹 雄	12 番	大 下 吉 三 郎
	13 番	岡 本 安 夫	14 番	矢 内 作 夫
	15 番	石 黒 永 剛	16 番	川 田 真 悟
	17 番	山 田 弘 治	18 番	平 岡 き ぬ 糸
	19 番	森 本 和 生	20 番	吉 井 秀 美
	21 番	鍋 島 裕 文	22 番	西 岡 正
欠席議員 (名)				
遅刻議員 (名)				
早退議員 (名)				

事務局出席 職員職氏名	議会事務局長	岡本 一 良	事務副局長	谷村 忠 則
説明のため出席 した者の職氏名 (30名)	町 長	庵 途 典 章	助 役	高 見 俊 男
	教 育 長	勝 山 剛	天文台公園長	黒 田 武 彦
	総 務 課 長	小 林 隆 俊	財 政 課 長	小 河 正 文
	まちづくり課長	南 上 透	生涯学習課長	岸 井 春 乗
	出 納 室 長	小 笹 和 則	税 務 課 長	大 橋 正 毅
	住 民 課 長	山 口 良 一	健 康 課 長	達 見 一 夫
	福 祉 課 長	内 山 導 男	スポーツ振興課長	井 村 均
	農林振興課長	大 久 保 八 郎	建 設 課 長	野 村 正 明
	住宅管理課長	田 村 章 憲	地籍調査課長	清 水 好 一
	商工観光課長	芳 原 廣 史	農業共済課長	城 内 哲 久
	下 水 道 課 長	寺 本 康 二	水 道 課 長	西 田 建 一
	クリーンセンター 所 長	森 脇 正 洋	教 育 委 員 会 会 長 総 務 課 長	山 口 清
	教 育 委 員 会 教 育 推 進 課 長	坪 内 頼 男	消 防 長	加 藤 隆 久
	天文台業務課長	杉 本 幸 六	上 月 支 所 長	金 谷 幹 夫
	南光支所長	森 崎 文 和	三日月支所長	飯 田 敏 晴
欠 席 者 (名)				
遅 刻 者 (名)				
早 退 者 (名)				
議 事 日 程	別 紙 の と お り			

【本日の会議に付した案件】

- 日程第 1 . 議案第 15 号 佐用町総合計画基本構想の策定について
日程第 2 . 日程第 3 及び日程第 6 について（委員長報告）
日程第 3 . 議案第 35 号 佐用町介護保険条例の一部を改正する条例について
日程第 4 . 議案第 39 号 佐用町公共下水道条例の一部を改正する条例について
日程第 5 . 議案第 40 号 佐用町個別排水処理施設設置管理条例の全部改正について
日程第 6 . 議案第 41 号 佐用町コミュニティ・プラント、農業集落排水処理施設条例の一部を改正する条例について
日程第 7 . 日程第 8 ないし日程第 10 について（委員長報告）
日程第 8 . 議案第 9 号 町道路線の廃止について
日程第 9 . 議案第 10 号 町道路線の変更について
日程第 10 . 議案第 14 号 三日月木工加工施設の指定管理者の指定について
日程第 11 . 日程第 12 ないし日程第 26 について（委員長報告）
日程第 12 . 議案第 54 号 平成 19 年度佐用町一般会計予算案の提出について
日程第 13 . 議案第 55 号 平成 19 年度佐用町国民健康保険特別会計予算案の提出について
日程第 14 . 議案第 56 号 平成 19 年度佐用町老人保健特別会計予算案の提出について
日程第 15 . 議案第 57 号 平成 19 年度佐用町介護保険特別会計予算案の提出について
日程第 16 . 議案第 58 号 平成 19 年度佐用町朝霧園特別会計予算案の提出について
日程第 17 . 議案第 59 号 平成 19 年度佐用町簡易水道事業特別会計予算案の提出について
日程第 18 . 議案第 60 号 平成 19 年度佐用町特定環境保全公共下水道事業特別会計予算案の提出について
日程第 19 . 議案第 61 号 平成 19 年度佐用町生活排水処理事業特別会計予算案の提出について
日程第 20 . 議案第 62 号 平成 19 年度佐用町西はりま天文台公園特別会計予算案の提出について
日程第 21 . 議案第 63 号 平成 19 年度佐用町笹ヶ丘荘特別会計予算案の提出について
日程第 22 . 議案第 64 号 平成 19 年度佐用町歯科保健特別会計予算案の提出について
日程第 23 . 議案第 65 号 平成 19 年度佐用町宅地造成事業特別会計予算案の提出について
日程第 24 . 議案第 66 号 平成 19 年度佐用町農業共済事業特別会計予算案の提出について
日程第 25 . 議案第 67 号 平成 19 年度佐用町石井財産区特別会計予算案の提出について
日程第 26 . 議案第 68 号 平成 19 年度佐用町水道事業会計予算案の提出について
日程第 27 . 外出支援サービス調査に関する調査報告について（委員長報告）
日程第 28 . 議案第 69 号 工事請負契約の変更について（高度情報通信網整備事業）
日程第 29 . 議案第 70 号 佐用町職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例について
日程追加 . 発議第 2 号 佐用町議会の議員の定数を定める条例の制定について
日程第 31 . 閉会中の常任委員会所管事務調査について

午前 10 時 00 分 開会

議長（西岡 正君） 皆さん、おはようございます。

早朝よりお揃いでご出席を賜り、誠にご苦労さんでございませう。

過日の本会議以来、それぞれ常任委員会等ご出席をいただき、各慎重に審議を賜り、大変ご苦労さんでございました。

開会に先立ちご報告申し上げておきますが、本日工事請負契約の変更についての案件 1

件、条例改正に関する案件が1件、追加提案されております。

よろしくご審議賜りますようお願いを申し上げます。

なお定例会のため地方自治法第121条の規定により、出席を求めたものは、町長、助役、教育長、天文台長、各課長、各支所長、消防長であります。

ただ今の出席議員数は定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第1．議案第15号 佐用町総合計画基本構想の策定について

議長（西岡 正君） 日程第1に入ります。

日程第1、議案第15号佐用町総合計画基本構想の策定についてを議題といたします。
これより本案についての質疑に入ります。質疑のある方、発言願います。

〔平岡君 挙手〕

議長（西岡 正君） 平岡きぬ糸君。

18番（平岡きぬ糸君） 総合計画の4ページで、この計画策定に向けた留意点として住民意識を充分踏まえると書いてあります。で、住民の声を活かす取り組みについて具体的にどうであったのかという事をお伺いしたいんですけど、100ページにその説明、策定までの一連の表になっておりますけれど、その点を具体的に聞かせてください。

それと2点目は、コンサルを入れて、こお策定されているんですけど、その費用の具体的な内容について、これも明らかにお願いいたします。

とりあえず2点お願いします。

議長（西岡 正君） はい、答弁願います。まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） 総合計画につきましては、新町のまちづくり計画を基本にいたしまして、それを具体化して総合計画として基本構想と基本計画につきまして明らかにしていくという計画の流れでございます。その中で住民参加を得るということで、大きな流れとしましては、アンケート等が一番大きな話なんでございます。まず1つは、どういう事で聞いたかというのは、1つはパブリックコメントの内容があるんですけども、これにつきましては、構想段階で策定の趣旨と基本方針等につきまして、ホームページの方で公開をいたしております。その中で、どういう内容のものを、どうして、どれぐらいな期間でどういう委員でつくっていくかということを公開させていただいております。それからアンケートにつきましては、直接集めたものもありますし、ホームページの中でもコメントを求めさせていただきました。それから、住民のもう1つタウンミーティングなり、そういう事でございますけども、意見聞くということにつきましては、大きい内容としては、アンケートを住民の2,500人、それから団体の関係で、直売所、老人会、商工会、ボランティア、子ども会、保護者、学校の先生等800人の方、それから高校生からは741人。それから町職員から500人。それから出身者によりますアンケート等を集めております。

それから話を聞く中としましては、1つは、試みとしまして、高校生がおりますけども、その中を学校との佐用高校と連絡をいたしまして、町のマイクロバスに乗ってもらいまして、町内の自然であるとか歴史とか主要施設等が町内にある施設につきまして、マイクロバス等で巡回をいたしました。そういう中で、後、高校において、帰ってきてから、その

そういう施設を見た、内容を見た感想とか、将来どうしたいかとか、住みたいかとか、というような内容を、そこで話し合いを持ってあります。それから、後、ボランティアなり学校の先生なり特産物の販売所なり、商工会等につきましては、全員ではありませんけれども、そういう中で意見交換というか、話し合いはさせていただいております。それから、もう1つの手法としましては、専門委員の方がおられますけれども、その方と一緒に話なんですけれども、1つは、佐用町の歴史遺産を把握するというので、9月10日に歴史遺産ウォークとフォーラムということで、独協大学の中元先生に、車にも乗っていただきまして、募集をかけまして、そのずっとマイクロで回っております。その後、フォーラムを開催して、それも町内にどういう事があるんかというのを、皆に知ってもらって共有するという意味合いでございます。参加者は約150名がありました。それからもう1つは、天文台の中で情報発信というということで、例年行われてますスターダストイン大撫の中で8月12日ですけれども、その中で、専門委員に黒田園長さんになっていただいておりますので、その中で500名集まってもらったんですけれども、その中で、黒田先生の方からお話をいただいております。それからもう1つは、県立大の中沢先生にも入っていただいたんですけれども、これはワーキンググループの方にお話をさせていただいたのと、後、県立大との提携みたいな格好で、佐用の商店街へ入り込みまして、学生等をこちらへ送っていただきまして、地域の中を青年部と一緒にいろいろ調査をしたり、最終的には、商工会の中で、集客イベント等をやろうとしたんですけれども、その分につきましては、警備等の関係で中止になりましたけれども、そういう形の取り組みをしております。それから、もう1人の先生がおられるんですけれども、その方につきましては、子育ての関係で、ジェンダーについての講演会のお話を、ワーキングチームに対してしていただいたということでございます。それが意見を聞いたり、周知、町民からの意見を聞く考え方でございます。

それから、総合計画の契約につきましては、契約内容で、前の時の予算の時出た内容と変わっておりませんので、そのままでございます。以上です。

議長（西岡 正君） はい、よろしいか。

〔平岡君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、平岡きぬ系君。

18番（平岡きぬ系君） 住民説明の中の、住民説明会というのは、具体的には取り組まれたんですか。もう一度、その点お願いします。それと、費用の事なんですけれども、この費用そのものは、18年度当初予算で審議されている内容ですので、その契約の内容は、その時に説明したとおっしゃいましたのですが、ちょっと具体的に契約内容についてお願いできますか。

議長（西岡 正君） はい。

まちづくり課長（南上 透君） 住民の声につきましては、そういう手法で聞かせていただきました。今後、ご承認をいただきますと、今度概要版いうのを作りまして、その中でお配りをさせていただきたいと、そういう事で、住民に対する周知とは考えております。そういう事でございます。それから、費用の面につきましては、ちょっとここに詳細持ってないんですけれども、前と変わった点につきましては、議会の中で審議をいただいて、その内容をご説明さしてもとうと思うんですけれども、そういう内容等は、それ以降は変わってお

りませんので、すみません。

〔平岡君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、平岡きぬ糸君。

18番（平岡きぬ糸君） 最初の、そもそものところが、ちょっと全員にわたってないと思いますから、時間的な意味で、事実私は知らないの、ちょっとお願いできますかと言っています。

議長（西岡 正君） ちょっと内容が聞き取りにくかったみたいなので、もう一度お願いできますか。
ちょっと、それ聞いといて、よく。もう一遍言うて。

町長（庵逄典章君） 何が分からんの、最初のところというのは、何のどこ。

18番（平岡きぬ糸君） コンサルを入れてね、ああ、質問が分からないということですね。
コンサルを入れて、今回の契約策定されているんですけど、計画を、そのコンサルの費用というのは、予算書に出ていますから、金額は分かるんですけど、その金額の費用の具体的な内容をどういうものに使われたのか、という点を具体的に説明して欲しいと質問しました。

議長（西岡 正君） はい。

まちづくり課長（南上 透君） まあ内容等につきましては、その今度は、印刷したりとか、そういう計画書を作ったり、それから概要版を作ったりとか、それから、まあそういう事が主になっております。それと神戸新聞事業者等と契約をいたしておりますので、そこから派遣をしていただいて、ワーキングなり、その審議会に出させていただいたり、その審議した経過をまとめていただいて、本にするという作業の分でございます。成果品としては、先ほど言いましたように、計画書とその概要版等になるということでございます。

議長（西岡 正君） はい、他に。ちょっと待ってください。

〔鍋島君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、鍋島議員。

21番（鍋島裕文君） じゃあ、関連で、この間ね、この総合計画の議案と、それから合併協の新町まちづくり計画、これを読み比べてみました、それぞれ感じた点について質問したいというふうに思うんですけども、今、平岡議員も言いましたけれども、率直な感じとしましてね、新町まちづくり計画を読んで、この総合計画読んだ場合に、もっと練らなきゃいけないんじゃないかと、充分練った計画にしなければいけないんじゃないかと思ったのが、率直な感想であります。それで、思った点について言いますけども、当然、総合計画は、新町まちづくり計画を土台にして作るということで、ちゃんと謳っています。土台にしてるんだけど、読み比べてみると、ほとんどが同じと、部分的に、字句等を変えて

きているという点は、勿論あります。ただ、むしろね、新町まちづくり計画の中では、誰もができる交通利用の問題では、合併協の方は、コミュニティーバス入れとんですね。ところが、この総合計画では、それを削除していると。これは、むしろちょっと後退しとんじゃないかと思えるような、新町まちづくり計画から見た場合に思える内容があります。それで、今の質問に出たと思いますけども、だったら、ほとんど同じ様な土台にした、新町まちづくり計画を土台にした総合計画はね、コンサルの果たした役割は何だったのかという点で、今、質問が出たと思います。減額補正をして、約1,000万円のコンサル料を払っていると、で、旧上月町の時から、コンサルの費用なんか、いろいろ聞いて来ましたけれども、結構アンケート関係に集約等、費用がかかるというような事も聞いておるんだけど、だったら伺いたいのは、今回の約1,000万円の中のアンケート集約等ですね、その関係で、5割なら5割、どのくらいかかったのか、それからコンサルが各会議に出て意見をまとめますから、そういったまとめ、それから編集ですね、そういった物で、だいたいどのくらいかかっているか、そういった支出内訳をね、明確にさせていただきたいというふうに思います。それで、その点と、もう1点は、これは、連絡会等でも、他の議員の方も、率直な意見を言っていました。この基本計画を読んで、具体的なまちづくりの絵が描けないと、夢ある地域づくりと言うけども、だったら、この基本計画読んで、佐用町、この町をどうしていくかというね、なかなか、絵が描きにくいというふうに意見も出てました。

私も、よく読んでみました。確かに、そう思う内容としてはね、やっぱり抽象的な内容で基本計画事態がね、勿論具体的なものありますけども、全体として抽象的でどちらとも取れると言わざるを得ないような表現になっております。合併協の新町まちづくり計画はどうなってるか言いますと、この新町まちづくり計画を土台にしてね、基本にして、詳細且つ具体的な内容は、総合計画で明記するというのが、新町まちづくり計画ですから、この経過からしても、なかなか、具体性に欠けるね、基本計画と言わざるを得ないというふうに思うんです。まあ、その点で、時間がないという事だったんだろうかとも思っとんてすよね。これが、この3月議会で議決しなければ、平成19年から5年10箇年の町としての、いわゆる地方自治法2条第4項の総合計画ができないということだったんだろうかと思ったんですけども、しかし、これはね、充分時間掛けたとしても、この間の地方自治法第2条4項の内容というのは、新町まちづくり計画で明らかにしておるわけですから、それに基づいた施策ということですね、役場事務はできます。そういう事からすれば、新町まちづくり計画があればね、総合計画は一定時間とって、練ったとしてもね、これは違法ではないんじゃないか、この様に考えるんですけども、この2点についてよろしく願います。

議長（西岡 正君） はい、お答えください、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） まず、具体的でないという話なんですけど、交通計画等につきましても、その町全体の中でも、交通計画を考える中で、外出支援等の絡みも出てますし、そうしたら、その空白地以外の、そのものをどうやっていくかという中には、別にコミュニティーバスと決まった訳ではございませんので、それを今後の中で、検討して、どういう形を組んでいくかというのは、その計画の中に入っておりますので、具体的な内容は、その辺が、詰まっていけば、実施計画に乗って行くという考え方をいたしております。まあ、1つの動きとしましては、町全体でやる話もありますし、例えば協議会単位で、地域の中で、交通の足を考えるとかいう動きもございます。いろんな中で、今後の中で、その交通計画等を全体の計画は立てていかなあかんというのが、残ってますので、その中で明らかになっていくというふうに思っております。それから、費用の面については、後で、

ちょっと詳細を説明させていただきたいと思います。それから、計画書を見ても、分かりにくいという話でございますけれども、基本的には、新町まちづくり計画を逸脱してはできませんので、それを基本にしていますので、基本理念の中で1人1人を大切にすまち、自然と共に生きるまち、協働でみらいを開くまちというのが、その理念がありまして、それぞれの思いを全部、その中に書いてあることでありますので、その事を曲げるということではできません。そういう中の分と、将来像も「ひと まち 自然がきらめく 共生の郷佐用」ということで、私達の手でつくる私達のまちという事で、住民参加の事も挙げてますので、行政がこうしますというもんでもないと、その中で協働で作りに上げていくもんやというように思っております。その中で、基本姿勢の中で煌く基盤づくりという中に時代に対応した財政基盤の話が、1つ謳ってますし、それから人々が、ふれ合い輝く自立と協働のまちづくりという事で、その中で住民参加とか、それから交流によって、そういう事を開くとか、開かれた行政であるとか、そういう事を基本にしながら、柱を立てまして、それを具体化していくという事で、その柱が、煌く人づくりと名もありますけれども、共に支え合うという事を、健康と福祉のまちづくり、その中で、福祉施策としてうてるのが、そこに書いてます、高齢者の福祉の推進であるとか、緊急救急医療であるとか、子育てとか、ずっとその対策を書いております。それから、この佐用の中で大切なのは、自然なり歴史遺産の話であります。もう1つは、自然的環境を守り育てて行くという基本がありますので、その中に、いかに住民として係われるかというような話とか、それから快適で便利な交流のまちづくりということで、幹線網の話、公共交通の話であるとか、定住環境、災害に強いまちづくり、それから、高度情報なんかの話も出てます。そういう中で、基盤も作っていきましょうと、後、そのアンケートの中で、具体的に雇用の場がないとか、いろんな事があるんですけども、その辺につきましても、具体的な形というのは、ないんですけども、播磨科学公園都市の分を基調にしながら、情報基盤なりいろんな事も含めながら、企業誘致を図りますという内容も謳ってますし、それから、新しく、こういう中で、企業誘致が、そりゃドンドン進めばいいんですけども、それだけやなしに、逆の面で、企業の支援とか、コミュニティーで、人が係わった中のビジネスの立上げであるとか、それから新しい、その情報化の為の、企業、デジタルビジネスという書き方してましたけども、そういう事の部分とか、一応全分野にまたがった内容ではお書きしてあるんじゃないかというように思います。その内容につきましても、各課で、時間ないことは、確かにあったんですけども、最終的に出さしてもらう前に、各課でも、自分とこの施策、将来的な考え方ながら、課長さん方にも全部見ていただきまして、その中でも、こういう事いうのも、意見も伺いましたし、その逆にコンサルであるとか、県なりいろんな所から聞いて、将来的な見通しの分の、総合計画、基本計画いう中では、そういう意味で網羅してあるというようには思っております。その中で、今後の中では、これに対する実施計画というのが出てきますので、この分の中から引き出した実施計画の中で具体化を図って行くもんというような考え方しております。

議長（西岡 正君） はい、よろしいか。

〔鍋島君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、鍋島裕文君。

21番（鍋島裕文君） ただ、新町まちづくり計画を曲げたり逸脱したという事を言うのもんじゃないんですよ。新町まちづくり計画を、より議論してね、発展させていくべきじゃ

ないか、つまり町民や職員の資料をもっと集めてね、それを発展させる内容にすべきじゃなかったかという質問をしておるんです。その為に時間がないという問題ではどうなのかという事で、地方自治法第2条4項というのは、どうしても、この3月に町総合計画を立てなきゃいけないというものではないんじゃないかと、新町まちづくり計画で基本が決まっておればね、例えば、この19年度、びっちり1年かけて資料集めて、立派なそういった新町計画を発展させたようなね、そういう総合計画にしていくことができるんじゃないか、そういう事を聞いていともんですけれども。法的にも、絶対あかんということなんですか。

議長（西岡 正君） はい、答弁、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） その件につきましては、一生懸命、その期間の中で、コンサル等もありますし、専門委員もありますし、中の職員なりそれから策定委員会、それから審議会、それから県の方等も施策、動き、つかまえられる範囲につきましては、いろいろ協議をさせていただいて、あくまで基本はそこにあります。それを具体化、できるだけ具体化していくのが、今度の仕事だと思うんですけれども、そういう中では網羅しておるといふ考え方はいたしております。それから、全体的に、もう1つないのは、全体の計画はあるんですけれども、1つは、地域計画の話ですけれども、その分につきましては、今後、協議会の中で、計画して出てきたものを新町のまちづくり計画の中に位置付けていく作業は残るんですけれども、それは、今後の中での課題というように思っております。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） まあ、10月に合併をいたしまして、その中で17年度から18年度にかけて、その中で、できるだけ早い期間に総合計画を策定して、それを指針にしながら、実効的な予算も組んで出して行くという事でございますので、今年の中で、やっていって、早く基本構想は10年間、基本計画は5年間という事で、着実な実効をして行きたいという事での計画です。

〔町長 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、町長。

町長（庵逄典章君） まあ、これを自治法の中で、どうしても、合併、新町発足後、例えば1年以内にしなきゃいけないとかという事の規定はないと思います。ただ、やはり、もう既に、行政として、いろいろと行政運営を行っている中でですね、できるだけ指針となるべき新町まちづくり計画ありますけれども、やっぱり、それは合併前に一応方向決めて、合併した後、それが内容的にほとんど同じであってもですね、総合計画と新町の総合計画として既定した中で、今後、その方針を基づいて、いろんな政策に取り組んでいくということです。具体的なですね、内容がないと言われますけれども、やはりこれは具体的なものになれば、予算も伴いますし、全て、そういう実際にやりたくても、なかなか予算上もできないということ、また県とのなり国との、いろいろな助成、補助制度そういうものにも則ってやろうとすればですね、今後、それは1つ1つの具体的なものとして取り上げていかないと、この総合計画の中でね、具体的に取り上げる事は、これは当然、総合計画の性格上できません。ただ、今回ですね、見ていただいたら分かりますように、やっぱり現状と課題、そして施策の方針、そして主要的な課題ということで、施策と課題ということ

ですね、こういうことを今後、取り組んでいきますという事まではですね、1つ1つ、ある程度、その方向としては具体的に盛り込んであると思っております。ですから、この事を今後のですね、これからのまちづくりの事業として、年度、ずっとこれから10年間ということですが、1年1年のですね、事業計画の中に盛り込んで、取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、一応この内容的には、かなり当然、全体に亘って表現、網羅しておりますけども、これはもう行政としてですね、総合行政として、当然のことだというふうに考えております。ご理解いただきたいと思います。

議長（西岡 正君） はい、鍋島議員よろしいか。

21番（鍋島裕文君） はい。

〔山本君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、山本幹雄君。

11番（山本幹雄君） これ前、私、いつだったかな、審議員のことで、これいつ募集したんかないう話、その時に課長は、何かよう分からん中で、3月から実施してましたよいうて、答弁された思うんですよ、間違いないですかね、ちょっとそこら辺だけ。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） そこに書いてますように、第1回が3月に委員会を開いております。その前に公募いたしまして、その委員さんができたことによって、第1回を17年度の末に審議会を開いております。

〔山本君 挙手〕

議長（西岡 正君） 山本幹雄君。

11番（山本幹雄君） あのね、去年の予算書の中でね、僕、それ帰った時見た時に、鍋島議員がね、専門委員何名にするつもりやっていうのがね、僕、予算書には簡単に3名予定という答弁あったで、そう書いたんや。帰って、答弁書をもらうわね、3月予算の質疑の中で、もうちょっと詳しい書いとったけど、まあ一応3名予定というのは書いてますわ。そしたらね、3月の予算の中で、そういうふうに聞いたんだったら、3名予定とか、ちょっと待てよいう話ですよ。あれ、まだ、その段階で予定なんかいと、3月のね、予算の中で、予定の段階やのに、もう既に公募して審議しとるいうて、それではおかしいん違うんかいなと僕は思うんです。でね、もしね、例えば3名予定しとんだったら、内定はしてませんが、だいたい3名この方とこの方、まだ内定もろてませんが、こういうのんしてますとか、こういう返事とかがあるんらしいけども、まだ予定です。3名を予定ですって、誰々を予定じゃないけど、3名を予定ですっていう事はね、ああ、まちづくり審議会というものは、まだまだ先の話なんだというふうに、僕らは皆受け取ったと思うんです。だから鍋島さん、そこあら先突っ込んであせん。そりゃそうや、まだ、3名予定いう返事なんだもん。まさか、こんな段階で、片一方で、もう実施されとうなんて思えへん。おかしいわな。そなん。片一方で実施しよんだったら、いついつ実施する予定ですいう返

事せなあかんやん。で、これ前から問題になっとうことは、そういった事を、いっこも議会に報告せえへんという姿勢が問題やちゅうんや。ねっ。まちづくり審議会を、重要な事を、まちの10年間の将来を決めよう、そんな人間を選択しよう、だけど、僕は、応募しとんも知らなんだ。ねっ。専門員何名にするんや。3名にする予定です。その程度の返事で、じゃあ、いつからするんか、どういうふうにするんか、途中経過はどうなんか、誰に決まったんか、3月で初めて開いたんだったら、そこで議会しとんだから、キチット説明があつていいはずなんや。例えばね、5月にした、合間やったから、言うん忘れとったいうんならええで、3月にしとんなら、去年3月に本会議しとうわけや。しとうわな、町長、3月で本会議しとうわな、去年。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） 審議会につきましては、各種団体から選ばれております。

〔山本君「そんな事、言いよん違うんや」と呼ぶ〕

まちづくり課長（南上 透君） それで、その今言われておる3名につきましては、公募委員の事でありまして、それをまあ、町民の中から広く公募するという中で、公募を行って、枠を3名にして公募をさしていただいたという事です。それから、まあ専門委員は、別途専門的な知識のある方ということで、神戸新聞の副学長であるとか、県立大の先生とか、そういうのを専門委員で選ばせていただいております。

〔山本君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、山本幹雄君。

11番（山本幹雄君） そんな事言いよんじゃないんですよ。去年3月に議会定例会開いておる。3月末までね。で、3月にした言うんだったら、ねっ、その時に最終日にでも報告できるんじゃないんですかって僕は言いよる。何にも報告がないのは、どういう事なんですか、名前が出て来たんが、この前初めてでしよって、で、そんな10年間キチットするんだったら、こういう事を、去年の3月の段階で、さっき言ったように、鍋島さんがね、何名ですかと言うたら、3名を予定してます。そんなええかげんな返事はないだろう。その時にこういう事を予定してますって、もう片一方でしよんだもん。そうでしょ。片一方でしよんなら、キチット、この人と、この人、ねっ、例えば、専門委員がこうやけども、極端な話、ねっ、こういう団体で、公募3名で、既に公募しておったんなら、公募もうしておりますとか、そういう返事があつてええんじゃないんですかって、私は、言わせてもらいよんです。それが、何も、その時の答弁書にもないわけ。

〔町長 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、町長。

町長（庵逄典章君） 去年の3月です、その予算の時に、いろいろと専門委員さんの何名で、金額はいくらかというような予算出しましたね。その時にいろいろと質問があったと思うんですよ。それで、いくらにしてる、1名いくらだとか、何名だとかというね、

で、それは、この後の専門、その後をお願いした県立大学の先生とかという専門委員会の先生方です。で、当然、昨年から、委員会、この審議会委員というものを、公募もしてです、始めておりました。これは、また公募枠は3名でしますという事は、議会にもお話をさしていただいております。だから、予算上いろいろと出たのは、下の専門委員さん何名にするかという事で、お話だったと思います。それは3月に出して、その4月以降にお願いしたということです。

〔山本君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、山本幹雄君。

11 番（山本幹雄君） あのね、3月から、もう審議委員がしよったんだろ。今、3月からしよった言うたやん。それ以前に公募した言うて言うたやん。ねっ、3月の時にね、そういう質問があった。あったわけや。載っとうわけや。ハッキリ。だったら、もうちょっと丁寧に返事するべきやないかって僕は言いようわけ。だから、3名があった、4名があった、それは、そんな事言いよん違うんや。それはもう、既に、さっきも言うたように、質問があって、3名です言うて、もう返事しとうがな、それ分かっておるわけや。だけど、その3月、さっきも言うたようにね、5月とか、全然時期のずれた時にしよんなら別やけど、同じ3月にしよってね、で、公募も、もう既に済んでおって、やっとなだったら、何で、そこで説明せんのんやって言いよんや。もうちょっと詳しく説明しとけば、皆、ああそうかな言うて分かる事を、後になってから、こんな、ええ、そうだったん言う話や。で、例えば、この審議会何回開いたか知らんけども、何回開きまして、こうなってますとか、そういう報告があったら、何ももめる事はないんや。こんな事で、何も、スツと行かなあかん話やと思うんやで、俺は。それが、何もなくて、何で、誰なんこれ言うて、審議委員いうて知らん言うて、多分誰も知らんはずやで。そんな事をせんと、キチットね、さっきも言うたように、鍋島さんが、昨年、去年の3月の委員会の中で聞いたうわけや。残っとうわけや。その時、3名と答えとうわけや。ねっ。僕のあの、予算書にも3名と答えただけ書いとうわけ。3名予定と答えたと、それだけ書いとうわけ。だけど、そうじゃないだろう言うて。もうちょっと丁寧に答えなあかんだろうし、こういうもんが出て、もう3月やったら、同時進行、同時に進行しとるわけやでな。公募は、もう既に済んどうわけやから、これで何も言わへんいうのは、それはちょっと、何ぼなんでも、それで、ここに今になって認めてください言うて、そりゃ、ねっ、それはちょっとどうなんだろう言うて。それは認めんか認めるか言うたら、認めるよ。けども、もうちょっと議会に対して、丁寧な対応を取るべきじゃないかと、僕は、そこだけを言いたいと思います。

以上、それだけ。

〔まちづくり課長 挙手〕

議長（西岡 正君） 課長。

まちづくり課長（南上 透君） すみません、申し訳ありません。その経過だけ、ちょっとご説明させていただきますけども、104 ページの中に、計画審議会の公募委員の募集要項というのを書いておるんですけども、任期につきましては、18年の3月から19年3月までという事で、応募資格、応募期間という事で、応募期間は、2月1日から24日までの間を、募集をかけさせていただいたと、そういう中で、応募方法につきましては、無線なり

広報等で募集をさせていただいたんですけども、それと、今議員さんご指摘のとおり、議会の中への報告の中で、もう少し、こちらの方が抜けておりまして、もう少し丁寧な説明をすべきだったなという事で、反省をしております。申し訳ありませんでした。

議長（西岡 正君） ちょっと待ってな。

〔岡本義君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、岡本安夫君。あっ、岡本安夫君じゃない、義次君。

4番（岡本義次君） 安夫って今、言われましたんで、後ろの方振り返って見ました。

4番、岡本義次です。

今、町長がお話されたように、だいたい、こういう中でね、網羅されて入っておると思いますけれど、地域の特性を活かした産業を活性化し、働く場を創設しようとか、それから、創出ですね。それから生きる力と豊かな心を育む教育と文化を醸成しようとか、こう載ってございます。しかし、これですね、参考のために、快適で便利で定住と交流を推進しようとかね、確か、こういう現状把握をとらまえては、だいたいいらっしゃるのかなと思いますけれど、今後ですね、参考のためにお伺いしますが、これらをですね、しようとするれば、具体的にね、やっぱり、この言葉の中では謳われて良い事は、載ってあるわけなんですけれど、実際に具体的に、本当に教育と文化の醸成、これ、いわゆる不登校の子とか、いじめの子をなくそうとするればですね、教育委員会の中でも、そういう専門家、先生方専門家ですけど、いわゆるプロジェクトなり、そういうようなん、組んででもね、ほな、これをする、実現するためには、どうするんやという様なことね、これからの課題かも分かりません。確かに、これどう言うんですかね、産業を活性化し、働く場を創設しようとか、いう事についても、確か、言葉ではですね、言えますけれど、そうしたら、それをする為にどうするんやというやつがね、確か、一番問題なんですね、佐用町、皆さんご存知のようにですね、ドンドン、ドンドンお年寄りの方なり、亡くなってですね、本当に尻つぼみの状態で、寂しくなっています。ですから、こういう10先って言うたら、とんでもないね、もうこの5年ぐらいで、そういう歯止めかけてね、それで、皆が希望を持てるような状態に、夢を持つような格好でね、持っていかんとあかんと思うんですよ。ですから、この観光の面でもね、例えば、90万から95万ぐらいが、入り込み客としてみえておると。そして美しい自然なりですね、いい場所、大撫山とか、そんなんもあると、これ、ほんら、やっぱり今、現状は、こういう、とらまえ方をされておりますけれど、ほな将来ですね、150万にするかっていうようなね、やっぱり考えてもろてね、次の手をうって、エージェントなりですね、組んででも、そういう1つのプロジェクト組んででも、それを増やす為にね、やっていくというやつをね、今後、どのようにお考えになっておるか、参考のために聞かせていただきたいと思います。

議長（西岡 正君） はい、答弁願います。まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） ちょっとお答えになるかどうか、分かりませんが、具体的な話は、今から、観光のネットワークであるとか、いろんな所組み合わせながら、交流人口を拡大して、その観光をしていこうと。それから、町内だけじゃなしに、もっと広い範囲での連携もしながら、やっていくという中で、佐用町のある自然なり歴史資源を、それこそどういう手段で、情報で出して行くかという事でありますので、それをPRしてい

く事が大事でありますので、今後の佐用チャンネルの関係もありましょうし、それから、いろんな所で、その情報を出して行くと、その中には、これはできてない話なんで、あれなんですけども、当然、役所の中でも、その課毎の対応じゃなくって、そのネットワーク、それこそ連携を取りながら、もう1つ言えば、住民の方とも連携を取りながら、ソフトも含めた事を出していかんと、なかなか、大きい観光をして、そのまま決然ということもないんで、そういう事をやりながら、その面で、情報発信をしていって、地道にやっ行って行く事が一番大事なんかなというように思っております。それとまあ、全町になりましたので、まだまだ、その旧で、他の所、町民の方でも知らない方もおられますし、今後、範囲を広げて、できるだけ、インターネットでありますと、ホームページであるとか、それから、ケーブルテレビなり、そういうのを通じて、できるだけ佐用の情報発信をして、通常の中で入り込んでもらう事を考えたり、後、姫新線等も、その高速化になりますので、そういう事を利用して、1時間以内で来れるという事があります。その中で足の問題もありますけども、そういう事を含めながら、佐用の中のものを売り出して行くという事を考える必要はあるのかなというようには思っております。

〔岡本義君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、岡本義次君。

4番（岡本義次君） まあ、早急にですね、ここに出ておる問題については、ここにいらっしゃる幹部の皆さん全部が関係ありますんで、直ぐにね、即、計画立てて、P T C Aまわしもってですね、いわゆる佐用の町が、少しでも良くなるような格好で、具体的なやつを、皆さんが作ってくださいよ。プラン。これの次のプランを、そして、その計画を、P D C Aまわいて、今年よりは明日、明日よりは明後日というような格好の中で、前進するようにな、ひとつ是非やってください。もう10年先とかいう、そんな悠長なこと待ったられんと思います。そういう事で、町長お願いします。

議長（西岡 正君） 答弁よろしいですね。

4番（岡本義次君） はい、よろしい。

〔平岡君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、平岡きぬ系君。

18番（平岡きぬ系君） 最初にお尋ねした住民の声を活かす取り組みの具体的な点で、回答いただいた、パブリックコメントについては、ホームページで公開しているという回答だったんですけど、住民の意見が反映できるような状態の公開でしたか。その点をもう一度お聞かせいただきたいと思います。それと、コンサル料については、詳細は後ほどという事だったんですけど、その1,000万補正がありましたから、結果的には1,000万を切れる金額になっているんですけど、その費用の中には、先ほどのお答えでは、その印刷したりするもの、概要版も含まれているというふうに受け止められたんですけど、その通りなんですか。その点、もう一度お願いします。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） 住民の声を聞くいう中で、申し上げましたんですけれども、1つは、その言いようホームページの中で、同じアンケート、同じ内容を、載せまして、それにつきましてご意見を伺うという方法を取っています。それから、アンケートも勿論、対象やらしていただきました。それから、全員ではないんですけれども、いろんな団体の方と、直接お話を聞かせていただいたという事で、住民の声を聞かせていただいております。それから、その言いよう、専門委員さんも通じた中で、イベントをやった中で、住民の参加も得ながら、そういう事もやっとなですよという事を、お知らせして、していたという事でございます。

それから、概要版の費用も、その中には含んでおるということでございます。

議長（西岡 正君） はい、よろしいか。

〔平岡君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、平岡きぬ糸君。

18番（平岡きぬ糸君） 内容的な事で質問したいんですけれど、まちづくりの、その基本目標は、そのページでいくと48ページから49ページに目標が出てるんですけれど、4町で合併協で作った新町のまちづくり計画の、いわゆる33ページに出ている所の計画と比較すると、それぞれ文言的に、同じもので土台としているとはいう説明だったんですけれど、町の住民に対して、人づくりのところていくとですね、自助とか、互助とか、共助の精神というのが強調されていて、町として全ての町民が安心できる地域社会を築いていきますというのが、旧町の4町で作った新町のまちづくり計画の中で明記されているんですね。例えばですけれど、その他の自然づくり、それから出会い、豊かな心、まちづくり、いずれも共通しているのは、住民の努力を強調しているというところで、町としてどうしていくのかという大事な目標、10年間に亘る基本構想なんですけれど、その点がね、むしろ薄まってきていて、弱くなっているというふうに、思うんですけれど、そこが大きな違いだなと思って、読み比べたんですけれど、その点は、コンサルを入れて、どのような話になったのか、お聞かせください。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） 今までの分につきましては、行政が、その主体で物事をやっていくという事もあるんですけれども、やはり、それは別に新町のまちづくり計画の内容から変わっておらないと思いますよ。それは基本理念の中で、当然町民参画も求めていますし、その行政と連携してやるという事も謳っています。それを、新町合併後、協働のまちづくりを推進しながら、結局町民と触れ合いながら、その地域の課題については、住民に取り組んでいくし、それから行政と連携しながら行くし、行政は、行政として、当然あるいろんな分野で考えんなん事は、政策として示していますし、お互いに、その協働いうんか、役割分担をしながら、良い町にしていきたいと思いますという流れですので、その辺については、変わっているとは思っておりません。

議長（西岡 正君） はい、平岡議員よろしいか。

18 番(平岡きぬ糸君) 思っていないとか、思っているとかじゃなくって、文言で明らかに、その点が違ってきているという事を指摘しているんです。違っていませんか。

議長(西岡 正君) はい、答弁願います。

まちづくり課長(南上 透君) 新町の計画につきましては、こういうふうにしていきますという答えの文言の訴え方で、実際、それを具体化していく中で、その事の趣旨は変わらへんのんですけども、ほな実際、どう進めて行くかというのを、そこで施策なり、そういう方向の中で書かせてもらっておるんで、その中には、当然、行政の責任もありますし、町民の参画の話もあるし、お互いに協力してやらなあかん事もありますし、そういう中で、施策をやっていこうという事なんで、違いがないというように私は思っておりますけど。

議長(西岡 正君) はい、山本議員よろしいか。もうよろしいか。

11 番(山本幹雄君) いや、もういいですよって事を、言おうか思うただけで。

〔金谷君 挙手〕

議長(西岡 正君) はい、ほな金谷英志君。

6 番(金谷英志君) 先ほどの岡本義次議員と、ほぼ同じ趣旨の質問なんですけども、具体化はどういうふうに進められるんかという事を、絞ってお伺いしたいのは、その 95 ページ、播磨科学公園都市への整備促進と、これは、新町 3 町の新町、テクノ、今言われた、テクノと言われて来ましたが、テクノで、それは旧三日月町の時代から、テクノに関しては、雇用促進とか、そういう事は、散々言われて来た。10 年経って、まだテクノは 8 割方しか産業用地が売れてない。ああいう状況です。その中で、新たに、この計画ですから、上げられるというのは分かるんですけども、その雇用の拡大とか、具体的にこういうふうにならされております。それが本当に現状の認識が、これね、確かにね、なかなか進まない。産業用地の一番で来たのは、フジプレミアムですけども、フジプレミアムは当初、300 人ぐらいの雇用の確保があるだろう。その内、半分は、3 町で持つだろう。そういう話もありました。実際、その佐用町で雇用が増えているのかどうか、実際、フジプレミアムなんかでしたら、外国人のアパートを作って、そこに雇用をするという事ですから、地元雇用の雇用の増えないという現状もありますから、具体的にこの 19 年度から、この計画始まるわけですから、具体的に、その計画が、どういうふうな、この今年度中に、5 年間、とりあえず前期の 5 年間は、立てられるわけですから、19 年度にどういう計画のスケジュールがあるのか、その点お伺いします。

議長(西岡 正君) はい。

〔町長 挙手〕

議長(西岡 正君) はい、町長。

町長(庵逄典章君) ここの方針として、あげておりますのは、科学公園都市の立地を活かし、新たな産業を導入、雇用の拡大、こういう事はね、これまでもずっと言われて来た

事だと思います。ただ、なかなか、やはり全体の日本の経済の動向の中ですね、科学公園としについても、当初計画通りの進捗、進展が図れなかったと、これは町の、この施策というのは、県の大きな政策、事業、そして国、町だけで考えられる問題では、なかったわけです。ただ、現在の経済状況の中ですね、近年、そういう新しい企業の創出、進出ですね、これについては、これまで、私達佐用町も含めて、この播磨科学公園都市を構成している市町が、できるだけ、こういう方針、企業の誘致、そして雇用の創出を図るために、もっと企業が進出しやすい条件をつくって欲しいという事も、かなり県にも要望してですね、用地の、この価格を安くするとか、また賃貸にするとか、細かい分割によって企業が進出しやすい条件づくり、こういう事を要望して来た事も1点あります。それと経済状況の、非常にまあ、ある程度回復がされて来たという中で、フジプレミアムだけじゃなくですね、新しい栗田工業とかですね、そういう企業も、もう一点、帝国電機なんかも、今、作るという事を言ってますし、もう産業用地の第一工区、工区ですね、約8割ぐらいが、だいたい埋まって来たというふうに聞いております。だから、そういう中で、地元の雇用がどうだという事ですけども、今回、佐用高校なんかの卒業生を見てもですね、そういうフジプレミアムあたりの所にも就職をされているように、私は聞いておりますのでね、で、地域の佐用町内の町民の方も、そういう企業の方に勤められておられる方もいらっしゃいます。だから、そういう面では、そういう雇用についてはですね、若い人達を中心になるとは思いますけども、雇用の場として、この科学公園都市の企業がかなり役割を果たしていただいていると、そういうふうに進んでいるというふうに、私は認識をいたしております。今後も、そういう企業に対して、これは学校なりとの連携も必要になるんですけども、企業からも人材確保について、いろいろと要望もあるという事で、逆に人手がですね、なかなか集まらないというような状況も聞いております。やっぱり、これは地域との連携という事が、これから常に必要だというふうに思っておりますので、県についても、できるだけ早く企業の誘致を図れるように、今後とも県にも要望をして参ります。

〔金谷君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、金谷英志君。

6番（金谷英志君） 今、町長が言われた、8割方売れてるんじゃないかって、8割方残ってるんじゃないんですか。

議長（西岡 正君） はい、町長。

町長（庵途典章君） 第一工区については、大体、それぐらいな予定が埋まって来たというふうに聞いております。現在のね、用地について。

議長（西岡 正君） はい、よろしいか。

〔金谷君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、金谷英志君。

6番（金谷英志君） その点は、ちょっと確認して欲しいと思うんです。それはまあ、企業が増えてもね、佐用町の雇用の創出には結びつかない。それを具体的

にどうするかいう事を、今、お聞きしたいんですね。

議長（西岡 正君） はい、町長。

町長（庵逄典章君） ですから、佐用町の雇用の創出にも繋がっていると。確かに企業ですから、労働力の確保という事ですね、なかなか一遍に、この地域で確保ができないというものもありますし、やっぱり企業は企業としての採算性とか言うような形で、契約社員とかというようなね、また外国人労働者の雇用というような事もされてる部分もあると思いますよ。しかし、フジプレミアムなんか見ても、相当佐用からも雇用、採用されておりますからね、だから、そういうふうには繋がっているというふうに、全体の雇用の底上げには大きく繋がっているというふうに思ってます。

議長（西岡 正君） はい、他に。

〔笹田君 挙手〕

議長（西岡 正君） 笹田鈴香君。

5番（笹田鈴香君） 笹田です。

直接文書的な事には関係がないんですが、写真なんですが、この総合計画の中に載ってます、この写真は、このまま載るわけですか。それとも、途中他のものと入替えるというような事はされますか。と言いますのは、同じ場所が載っているんで、別に悪くはないんですけども、例えば、見た人が、関係の地域の人には嬉しいと思うんですが、やはり折角4町、旧町が一緒になっているんで、できれば、いろんな所を載せて欲しいと思うんですが、その辺は、どうでしょうか。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） 写真については、まだ見ておりませんので、その辺につきましては、確認をさせていただきます。

〔笹田君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、笹田鈴香君。

5番（笹田鈴香君） 例えば、5ページと108ページなんですが、棚田が載ってるんですね、その後、多分これも角度違いますけど、21ページと、49ページだったかな、49ページが、多分同じものじゃないかなと思うんですけども、その辺、できれば折角ですから、いろんな所を撮って欲しいと思います。

議長（西岡 正君） はい、要望ですね。
他にありますか。

〔石堂君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、石堂 基君。

1 番（石堂 基君） すみません、あの、鍋島議員それから山本議員の質問等々と重複する部分があるかなと思うんですが、申し訳ありません。

この総合計画自身の位置づけですけれど、当然の事ながら、自治法に定められ、この計画書の中でも、町の最上位計画であるという事で謳われています。これに関しては、この間の質疑の中にもありましたように、いろいろな経過があったと思います。昨年の3月以降スタートしているわけですけれども、やっぱり、この計画自身、町の最上位計画というような位置付けされるべきものの作成の段階での流れですね、これに対して、やっぱりどうしても、その疑問というんか、こんなやり方なかなってというのが、払拭できません。で、そこで、ちょっと質問をさせていただきたいんですけども、実際には、私は一般住民として、去年の3月4月ぐらいの広報で、こういうふうな計画づくりが始まりますという事で、審議委員さんの募集があるというところぐらいから、こう目にして来たわけですけども、その後審議会自身は、その都度、都度、広報なんかで、こう実施されましたみたいな形で記事にした事を目にしとんですが、3月、6月そして9月だったんかな、11月で、先月の2月だったと思うんです。で、その間、1住民とすれば、計画自身が、どういうふうな形で進んでいるんやとか、住民の声がどういうふうにして聞かれるんかなというような事を、全く知る事はできませんでした。で、12月の私、一般質問で、初めて総合計画なり行財政計画なんかの策定はどうなっているんですかという事で、質問をさせていただいて、その翌月1月の下旬の議員連絡会で初めて活字になったものというのが、議員として目にする事ができたわけですね、で、その流れって、そういうもんでいいんかどうか、まあ、山本議員なり鍋島議員の方も、そういう質問をされていたと思うんですけども、そういうような時間的な経過、そして最終的に、この3月の31日までに、議決をしなければいけないという事を、最初から分かっておきながら、そうした流れで順調に来てた、良かったというふうに、まちづくり課長の方はお考えですか。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） 元々、まあ、総合計画自体は、その合併して、それを最上位計画として作り上げると、そういう中に、できるだけ住民参画なりを得て作り上げたいという気持ちで取り組んでは参りました。その中で、もうちょっと住民と、そういう意見を聞いたりとか、そのそういう流れが出て行く事については、なかなかできにくかったんですけど、先ほど説明しましたけども、やはり、提起がありまして、そこからまとめていく中に、時間的な経過もありましたので、そういう点が、少し弱いと言えば弱いというところがあるかなと思うんですけども、最終的には、いろんな期間の無い形だったんですけど、中の策定なり、いろんな所から、まあ最終的には、まとまったというように思っております。そういう中で、住民の声を聞く、出て行ってとか、そういう分につきましては、ちょっと弱い面があったというようには反省しております。

議長（西岡 正君） はい、よろしいか。

〔石堂君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、石堂 基君。

1 番（石堂 基君） これ実際には、その業務自身に相当量の内容があると思うし、この間、昨年、住民を対象にしたアンケート、あるいはその専門委員会なんかの開催等々で、相当の事務量をこなされているというような象徴しているわけですけども、それがある程度、途中の段階で、住民、特に議会という事で出て来ておれば、僕は、もうちょっと内容的に充分、住民に対してもPR、あるいは将来的にこうなるんやぞというような説明ができ、またそれに逆に反映できるような意見も吸い上げる事ができたのではないかなというふうに思います。特に残念なのが、1月の下旬の、その議員連絡会で、これ課長の方の答弁だったか、担当者の方の答弁だったか、ちょっと忘れたんですけども、要は、その、その時に、骨子とそれから本編ですよ、この計画書になる前の段階のやつをいただいて見させていただいて、じゃあ、この内容をどうするんですかという事で、今後、タウンミーティング、パブリックコメントの実施ということで、言われたんで、私は、てっきり、それから町の方が地域に出て来て、説明会なり意見聴衆という事を、単純に思ったんですけど、そのカタカナの言葉から。ところが、今の説明聞いてますと、ホームページで意見を募集しましたと、で、多分、そのね、課長もたくさんおってですけど、議員さん、これ私も含めて22名、ホームページで、これ意見募集しとんやなって、見たった人が、こん中でも、ほんまに片手おってないん違うかなと思うんですよね。で、それで意見を募集する事を、充分だというふうに考えとってんが、僕は問題やと思うんです。これ、あの、別に課長攻めているわけじゃなしに、この計画書自身を作成しておる、担当者レベル言うんか、そのあたりの問題やと思うんですけども、ちょっと、ほんまにこう、真摯に住民の中へ入って言って、声聞こうという姿勢がね、どうも考え受け取ることができ辛いんですよ。で、仮に、そのホームページを、例えば、何十名、何百名の方が見たって、意見を出したとしても、じゃあ、それがこの計画書に反映されるような義務ってないですもんね。意見が寄せて来ました。でも、こっちで考えた、この内容でいきますよという姿勢が、逆に見えて来るんですよ。実際には、昨年の、この審議会の中でのやり取りでも、僕は、一部聞いたんですけど、公募で応募された委員さんが、当局の説明を受けて、それに対して意見言ったけども、形変わらないと。で、一方的な説明で終わって、何やそれやったらいう事で、次の審議会を欠席されたというような事も聞いております。これは、多分事実だと思うんですが、もし違ってたら、また訂正していただいたらいいんですけども、要は、そのホンマに一般の声を受け入れようという計画になっているかどうか。あるいは、それに途中が、先ほどはありましたけども、その時間的な事で、若干その部分が弱かったというふうな説明ありましたけども、少なからずとも、1月以降、活字になった段階で、そういう時期は十分に持てるはずだったと思うんですよ。にも係わらず、この3月の議会で承認してくださいというような形が出る。前段議案が出る以前に、2月の審議会に間に合うように、この2色刷りのやつですか、これを受けて、正式に、私らもそうですが、住民も説明っていう内容では、まだ聞いてないですよ。で、見ておって、意見があれば、2月の、あれいつやったかな、21日までに寄せてくださいという、要は、先ほど言いましたように、ホームページで上げてますから、意見のある方は書いてくださいと一緒に、どうも、その辺りの姿勢っていうのがね、疑問を抱かざるを得ないんですけども、こうした、1月以降の取り組み方についても、これ順当に担当課の方では考えられている取り組み方なり取り組みの経過なんですか。お願いします。

議長（西岡 正君） まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） 実質1年の中で、審議会を開きながら、新町まちづくり計画自体については、そのものがあるわけですので、それを具体化する手法として、基本構想

と基本計画という事で、その分の成果ができましたのが、2月に入ってからという事でございます。そういう中で、その時点で、できるだけ早い機会に、議員さんにご説明をさせていただこうとしたのが、あの時点で、2回の説明会を持たせてもらったのが、あの、あれが精一杯努力した結果ということでございます。そういう中で、審議会の委員さんにつきましては、新町のまちづくり計画の考え方はこうですよと。それから、こう詰めて行く内容はこうですよという事で、審議会の意見、委員さん等の意見もお聞かせ願った事はありますし、それから指摘された事は、できるだけ、その内容的に取り入れられる分については、整理をさせていただいたというようには思っておりますけども。それから、まあ、もう1つ、弱いと言え、その言いよう、その中で、そういう方向の中で、それを聞くという事が、弱いと言え、そういう点が反省点であるというようには思っております。結果的には、そういう事で、ある程度の方向付けができませんと、ちょっと聞きにくいという流れがありましたので、そういう経過になっております。途中としては、どういう事を望むか云々の話は、アンケート等でやらしていただいたという経過になっております。

議長（西岡 正君） はい、よろしいか。

〔石堂君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、石堂 基君。

1番（石堂 基君） 最後なんですけども、本当に住民の声っていうのは、直接的には、アンケートだけという事になるんですが、アンケートの集約結果、これ計画書の中にも26ページにありますけども、実際には、4,000いくら回収率が50パーセント弱ですから、回収、声として上がってきたのが、2,400ですよ。で、その内、特定の、例えば高校生であるとか、あるいは職種を限定した団体、役場職員という事になれば、回収率かなり高いですよ。で、本当にそれ以外の一般住民という事になれば、僕は、数的には、これは1,000を切ると思うんですよ。と言う事になれば、住民の1割を満たない声を聞いて、それが住民の全ての声やというふうに、ここの上で反映されるっていうのは、如何がなもんかなというふうに思います。それと、もう1点、例えば住民アンケートの実施のやり方についても、項目、アンケートの聞き方ですよ、文言、で、ここの27、28ぐらいですか、この辺りに、将来的に、その期待する施策ですね、住民が、これ、ある程度、当局、政策、計画策定者の方が、こういうふうな項目で言うて、来ている中から、選択、2点あるいは、3点の選択だと思うんです。ところが、この基本計画を策定するベースのまちづくり計画においては、住民が一番最優先で、期待をしている課題というのは、これは行財政改革なんですよ、で、そういうふうな大事な一番住民が、合併前に期待をしている施策について、今度、合併後、この計画をつくる段階で、その項目を上げないでアンケートをして、そのアンケート結果が充分かと言ったら、充分じゃないですよ。ちょっと分かり辛いですかね。分かります。要は、恣意的な問い方、極端に言えばですね、恣意的な問い方をし出て来る、まあ良策ばかりですわね。何々をします。何がして欲しいですかっていう、そういうふうな方向性っていうのも、若干、この計画づくりの中で、僕は疑問があると思うんです。ただまあ、少なからずとも、本当に、こう1年間、その専門委員さんなり、委員会に係わった人、それからまた役場の関係課長らについても、相当な時間を費やされている事で、この今回提出されている計画書自身については、認めて行く姿勢なんです。ただ、今後、大事になって来るのが、これまでの答弁でもありましたように、当然5年間、この実施計画になって来ようかと思えます。で、その辺りが、全て、これまでと同じ様な

形で、作られていくんじゃないしに、少なからずとも、住民に、その都度説明、それから意見を聞くというような形で、ローリングしていくような実施計画づくりが行われるように要望して、それに答弁等があれば、答えていただいて終わりたいと思います。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） アンケート等の件でありますけども、その合併の前に、全部のアンケートかな、そういう事を取られてまして、あんまり期間がないという事で、いろんな住民の方からと、いろんな、ちょっと変えた団体の方から聴衆をして、その全体の意見として、取れるのかなという、専門的な、ちょっと協議の中でありまして、そういう方法で、アンケートをさしていただきました。それから、アンケートの項目につきましても、いろいろ検討はさしていただいたんですけども、議員さん言われるように、不十分な点もあったかというように思います。そのどういう事の方向性に持って行ったらいいんか、住民としてどういう事をしていきたいのか、させられるのかと、いろんな事の内容のアンケートにしていますので、そのいわゆる行政の財政の部分が抜けておったという点につきましては、その指摘のある分かと思いますけども。まあ、はい。それ、その部分なんですけども、そういう反省もありますけども、この件につきましては、その一生懸命いいですか、そういう中で、できるだけ形では取り組ませていただいて、住民の意見を聞きながらやるという事は、さしていただいたという事で、反省点もありますけども、ご了解をお願いしたいと思います。

〔町長 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、町長。

町長（庵逄典章君） 今、ご指摘のあった、そのアンケートというのは、非常にね、取り方によって、ある意味では、今言われるように、意図的にですね、こういう方向でという問いの仕方によって、かなり変わって来ると。だから、本来、一番重要なところをアンケートの項目に入れてなければ、そのアンケート結果もでないんじゃないかという事で、それがまあ、1つの、今、ご指摘の行財政改革という事にご指摘を受けたんですけどもね、この、私は、今回のこの住民アンケートの中の施策、住民がどういう事に今、一番課題として問題、自分達の生活の中でね、要望があるのか、こういうふうにして欲しいという希望があるのかという、一番不安なのかという事については、項目がいろいろと、交通の問題とか、健康の問題とかですね、教育の問題とかと、いろんな形で出して来たと思うんです。行財政改革というのは、これは、あくまでも、そういう事を行っていく上での、全体的な事で、あまりこの1つ1つの課題と一元的にですね、捉えるべき話ではない。当然、その事を、行財政改革やっていって、そういうサービス低下なり、住民要望に答えられない事では駄目、そういう事を答えて行くために、いかに、まず基本的に効率化を図り、財政の安定化を図って行くかという事は、これはもう、全体の問題だというふうに思っております。ですから、このアンケートで言えば、そういう項目を入れるというのは、僕は、ちょっとふさわしくないという事で、入っていないというふうには理解しております。

議長（西岡 正君） はい、よろしいですね。

〔新田君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、新田俊一君。

2番（新田俊一君） 審議委員さんの、あの、ちょっと任期についてお尋ねしたいんですけどね、これ18年の3月から19年の3月迄ですわね。この後に載っておられる20名の審議委員さんですか、こういった方が、3月迄だったら、この新しい3月に委員さん、どないして決められて、何か公募されてされとんですけど、何か、ちょっと刷新して残すんには、ちょっと、こう矛盾も感じるし、留任とか、何とかいうお言葉も聞いてないんですけども、そういう条例も何か書いてないようなんですけども、その辺は、どないされるのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

議長（西岡 正君） はい、お答えください。

まちづくり課長（南上 透君） そういうように、審議委員さんにつきましては、答申言いますか、それを作成するまでの期間という事で、答申された時点で、委員さんにつきましては、役員を終わっていただいたという事でございます。

〔新田君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、新田俊一君。

2番（新田俊一君） ほなら、この委員さん、全部終わりですか。これには、まあ、だいたい10年間程こうやっていかれるという事なんで、やはり、審議委員さんは、ずっと10年間は、やっぱり選出していくようにするんじゃないんですか。この3月に、全部これはもう終わりなんですか。もう1回ちょっと。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） 審議会の条例についてはありますけども、今回の審議員さんにつきましては、策定をしていただいた時点で、終わらせていただくというようになっております。

〔新田君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、新田俊一君。

2番（新田俊一君） 10年間、これ続くようになっとんですけどもね、その後は、ちょっとその辺お聞きしたいんですけど。

〔町長 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、町長。

町長（庵途典章君） こういう計画というのはですね、当然、期間を決めて、何年間の計画という事をつくりましますけども、今、現段階において、策定が終われば、これが、それが

一応、町としての 10 年間の総合計画という事で、今後最上位計画として位置付けられるわけですが、計画そのものは、一応これが議決いただいて、それが計画として認定されれば、それで審議会としては、これで終わりです。その審議についてね。

それを、今度いろいろと計画の内容をですね、また変更するとか、見直して行くという事になれば、新たにまた審議会を作って審議をするという形になりますけどもね、当面、その事は、通常はありませんから、この審議会は、策定が終われば、審議会は終わるといふ事になります。

議長（西岡 正君） はい、よろしいか。他に。
ないようですから、質疑を終結いたします。
これより、本案についての討論に入ります。討論ございますか。

〔平岡君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、平岡きぬ糸君。

18 番（平岡きぬ糸君） はい、議案第 15 号佐用町総合計画基本構想の策定について反対討論を行います。

町総合計画は、地方自治法第 2 条第 4 項に基づく行政運営の総合的な方向性を示した基本構想と各分野の施策を明示した基本計画から成る町の最上位計画です。

しかし、策定に当たって、次の問題点を指摘し、反対いたします。

まず 1 番目は、アンケート調査は実施されていますが、パブリックコメント、タウンミーティング、住民説明会がいずれも不十分で計画されたものであるという事実は、重要な構想だけに、住民の声を活かすという基本的な点で作成の手法が民主的でないという重大な問題があります。

2 点目に、総合計画基本構想は、旧 4 町の合併協で策定した、新町まちづくり計画を、より詳細且つ具体的にしたものとなりますけれども、まず 10 年間の基本構想の 48 から 49 ページの基本目標の表現が、合併協のまちづくりの目標の内容と比較して、町民の自助、互助、共助を柱にした内容となっており、町の果たす役割が小さくなっています。合併した佐用町の町の姿勢が、後退しているものになり、夢が描けないものと言えます。また、施策の方向として、52 ページから 58 ページは、分野毎の施策の方向を示しておりますが、旧 4 町で策定した新町まちづくり計画から比較して、町民の努力が強調され、町の果たす役割が見えにくくなっています。例えば、52 ページの自立と協働のまちづくりでは、町民の努力（自助）と地域の力（共助）。行政は、それを支援するとあり、住民参加のまちづくりや、開かれた行政の推進という文言がなくなっています。

3 点目に、基本計画は、基本構想に基づく 5 年間の基本的な施策です。第 1 節で、協働のまちづくりとしながら、町の役割が見えにくい。また計画策定に当たっての手法も開かれた行政とは言えません。第 2 節では、行政基盤の確立について、国の三位一体の改革を受け入れ、民間活力の導入を進める。行政運営で合併した周辺町の住民が、最も危惧していた合併後の役所が遠くなり不便になる。取り残されるという事に対して、行政の効率化だけで、支所機能の充実の記載がありません。第 4 節では、ごみの減量化や循環型社会と言いながら西播磨 3 市 2 町での大型ごみ処理建設を推進しているという矛盾があります。計画は、国の三位一体改革を仕方ないものとして受け入れ、効率化の名の下に住民の要求を抑えるものになっており、民間活力の導入の検討を柱にしています。自立と協働のまちづくりの基本としておりますけれども、合併新町の実情に合ったものにしていく構想が見え

ません。平成 18 年度コンサルに委託して策定しておりますが、合併協議会の新町まちづくり計画をなぞらえる計画で、しかも町の姿勢が後退した内容と言わざるを得ない。この委託料 1,000 万弱ですが、9,739 万円は、本当に有効なものであったのか、疑問を感じます。これでは、町民が新町の夢を描ける計画とは言えません。夢が描ける計画にするために、住民参加でもっと内容を練る必要がある事を述べて反対討論を終わります。

議長（西岡 正君） はい、他にございますか。

〔岡本義君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、岡本義次君。

4 番（岡本義次君） はい、賛成討論をします。

これはですね、大方の分については、網羅されておると思います。今詳しいことですね、細々と住民の声が反映されてないとかおっしゃいましたけれど出すね、私は、今、ここに つくってある事につきましてですね、今後、各課長さんが、自分の担当の所を 5 回、7 回、10 回読んでですね、そして、最終的には、佐用の町がこんなに良くなるんだというやつを作っていたかどうかという事を期待してですね、賛成といたします。

議長（西岡 正君） はい、他に。

〔岡本安君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、岡本安夫君。

13 番（岡本安夫君） はい、賛成討論をいたします。

いろいろと、行政の姿勢が後退されるという事を指摘されましたが、今、合併後こそ、今までの行政と住民の形を切り替える時であります。それについて、協働のまちづくり等でも謳っておりますけれども、住民が主体となったまちづくりをするんだという事を、強調している総合計画だと思います。議員自ら、そういう事を切り替えてやるべきではないかと思えます。そういう点におきましても、行政が後退という指摘は当たらないと思えます。よって賛成いたします。

議長（西岡 正君） はい、ないようですから、討論を終結いたします。

これより、本案についての採決に入ります。

議案第 15 号、佐用町総合計画基本構想の策定についてを原案のとおり可決することに賛成の方、挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、多数であります。よって本案は原案のとおり可決されました。

ここで暫く、休憩をいたします。再開を 11 時 30 分といたします。

午前 11 時 20 分 休憩

午前 11 時 30 分 再開

議長（西岡 正君） 休憩を解き、再開をいたします。

日程第 2 . 日程第 3 及び日程第 6 について（委員長報告）

議長（西岡 正君） 続いて、日程第 2 に移ります。

日程第 2、日程第 3 ないし日程第 6 を一括上程したいと思います。

議案第 35 号佐用町介護保険条例の一部を改正する条例について。

議案第 39 号佐用町公共下水道条例の一部を改正する条例について。

議案第 40 号佐用町個別排水処理施設設置管理条例の全部改正について。

議案第 41 号佐用町コミュニティ・プラント、農業集落排水処理施設条例の一部を改正する条例については、所管の厚生常任委員会に審査を付託いたしておりましたので、これより厚生常任委員長の審査の報告を求めます。

厚生常任委員長、松尾文雄君。

〔厚生常任委員長 松尾文雄君 登壇〕

厚生常任委員長（松尾文雄君） それでは、厚生常任委員会審査報告を行います。

去る 3 月 14 日に厚生常任委員会を午前 9 時 30 分より開会いたしました。

この度の第 12 回定例会において、当委員会に審査の付託をされた案件は、議案が 4 件であります。

当日出席委員は、7 名全員と議長、当局側には、町長、助役、健康課長、下水道課長に出席を求め、審査を行いました。

以下、議案毎に審査の経過及び結果の報告を行います。

まず、議案第 35 号佐用町介護保険条例の一部を改正する条例についてであります。

当局に、補足説明を求めたところ、平成 18 年度からの介護保険法の改正に伴うもので、所得の段階により保険料を納付していただくものです。1 段階増え 6 段階になり、逆転現象を生じさせないための国の改正で、佐用町の介護保険条例を改正するものですとの補足説明がありました。その後、質疑に入り、各委員からは、生計が困難と認められた方で、逆転と言うことで認めたケースがありますか。との質疑に対しましては、旧佐用町で 1 件のみありました。合併後のついではありません。との答弁がありました。また介護保険の滞納者は、具体的には生活に困窮していない人も滞納しているのかの質疑に対して、いろんな理由があって、収めていただけない。との答弁がありました。質疑を打ち切り討論に入りましたが、討論はなく、採決の結果、原案のとおり採択する事に賛成が 6、反対が 0 で、議案第 35 号佐用町介護保険条例の一部を改正する条例については、原案のとおり採択することになりました。

続きまして、議案第 39 号佐用町公共下水道条例の一部を改正する条例についてであります。当局に補足説明を求めたところ、昨年 3 月に条例改正し、今回一部を改正します、汚水を流す方全部が対象になり、条例上住民登録にあった事実にとった形で改正するものです。との補足説明がありました。その後、質疑に入りまして、委員からは、工事関係で、民家の借り上げしている場合やプレハブ等の方は住所を持って来られているのか。その辺の調査は。との質疑に対し、昨年 4 月から調査し、確認しております。との答弁であります。徴収利用量が増えているのか。との質疑に対しては、民家の場合はそのまま継続されていますし、事務所等は確認し、指導した場合がありますので、若干増えているとの答弁

がありました。その後、質疑を打ち切り、討論に入りましたが、討論はなく、採決の結果、原案のとおり採択することに賛成が6、反対が0で、議案第39号佐用町公共下水道条例の一部を改正する条例については、原案のとおり採択することになりました。

続きまして、議案第40号佐用町個別排水処理施設設置管理条例の全部改正についてであります。当局に補足説明を求めたところ、合併協議の内容と条例制定の内容が、間違っていたので、正規に直すために全部改正するものですとの補足説明がありました。その後、委員からの質疑で、予算上の問題は。との質疑に対し、旧佐用町では、生活排水処理の特別会計のなかで、使用料をいたadenaなかで、維持管理をしています。また、それ以外は、一般会計でさわやか協議会に補助金出して、運営していますとの答弁がありました。また、さわやか協議会の対象戸数は。との質疑に対し、全部で1,800から1,900ぐらい。旧南光で300基、三日月が50基との答弁がありました。その後、質疑を打ち切り、討論に入りましたが、討論はなく、採決の結果、原案のとおり賛成する事に、賛成が6、反対が0で、議案第40号佐用町個別排水処理施設設置管理条例の全部改正については、原案のとおり採択することになりました。

続きまして、議案第41号佐用町コミュニティ・プラント、農業集落排水処理施設条例の一部を改正する条例についてであります。当局に補足説明を求めたところ、上月の福吉と力万の処理場です。農業排水は南光が3箇所、佐用が3箇所、上月が4箇所が対象になり、公共下水道と同じように条例改正するものです。との補足説明がありました。その後、質疑に入りまして、委員からは、平成18年度4月から適用ということですが、その点についてはとの事で、公共下水道条例と同じように施行をする。現実現場事務所等の使用料をいただいております。との答弁がありました。また、町水と一般の水とを一緒に使っている人の判断は。との質疑に対しましては、一般家庭は、人頭制を使っています。多いところは井戸水等にメーターを取り付け合算しています。との答弁がありました。質疑を打ち切り討論に入りましたが、討論はなく、採決の結果、原案のとおり採択する事に賛成が6、反対0で、議案第41号佐用町コミュニティ・プラント、農業集落排水処理施設条例の一部を改正する条例については、原案のとおり採択することになりました。

以上で、厚生常任委員会の審査報告を終わります。

尚、詳しくは、また委員会録をご覧いただいたらと思っております。以上です。

議長（西岡 正君） 厚生常任委員長の審査報告は終わりました。

各議案毎に委員長報告についての質疑及び討論・採決を続けて行いますのでよろしくお願いをいたします。

議案第35号佐用町介護保険条例の一部を改正する条例についての委員長報告の質疑に入ります。質疑のある方。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですから、質疑を終結いたします。

これより本案について討論に入ります。討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようでございますので、討論を終結いたします。これで、本案の討論を終結いたしました。

本案について採決に入ります。

議案第 35 号佐用町介護保険条例の一部を改正する条例について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。

続いて、議案第 39 号佐用町公共下水道条例の一部を改正する条例について、委員長報告の質疑に入ります。質疑ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。

続いて、討論に入ります。討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、討論を終結いたします。

本案について、採決に入ります。

議案第 39 号佐用町公共下水道条例の一部を改正する条例について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。

続いて、議案第 40 号佐用町個別排水処理施設設置管理条例の全部改正について、委員長報告に対して質疑に入ります。質疑ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） 質疑がないようでございますので、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論ございませんか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） 討論がないようですので、討論を終結いたします。

本案について、採決に入ります。

議案第 40 号佐用町個別排水処理施設設置管理条例の全部改正について、委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。

続いて、議案第 41 号佐用町コミュニティ・プラント、農業集落排水処理施設条例の一部を改正する条例について、委員長報告の質疑に入りますが、質疑ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。
これより討論に入ります。討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、討論を終結いたします。
本案についての採決に入ります。
議案第 41 号佐用町コミュニティ・プラント、農業集落排水処理施設条例の一部を改正する条例について、委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。

日程第 7 . 日程第 8 ないし日程第 10 について（委員長報告）

議長（西岡 正君） 日程第 7 に入ります。
日程第 7 . 日程第 8 ないし日程第 10 を一括上程し、議案第 9 号町道路線の廃止について。
議案第 10 号町道路線の変更について。
議案第 14 号三日月木工加工施設の指定管理者の指定については、所管の産業建設常任委員会に審査を付託いたしておりましたので、これより産業建設常任委員長の審査報告を求めます。
産業建設常任委員長、森本和生君。

〔産業建設常任委員長 森本和生君 登壇〕

産業建設常任委員長(森本和生君) 本議会で産業建設常任委員会に付託された議案第 9、10、14 号の 3 議案の審査の経過と結果について主な点を報告いたします。
日時、平成 19 年 3 月 15 日、午後 1 時 30 より。
場所、役場 3 階、委員会室。
出席者、委員 7 名全員出席。
当局からは、町長、農林振興課長、建設課長、議会事務局長でございます。
まず 3 議案とも、現地の状況等調査が必要であり、現地調査をし、説明を求めたところ
であります。
議案第 9 号町道路線の廃止について、本件は、平成 15 年から 17 年度にかけて、34 戸の町営住宅建設にかかるもので、旧町においては町道敷として、路線として存在していたものを、公営住宅敷地として、道路が消滅したものであり、道路法に則り、道路から抹消し、廃止するものであります。
まず建設課長より補足説明を求め、質疑に入りました。
質疑では、旧町道が消滅して、新しい路線を町道認定しない理由は、課長、事業認可の

時点で協議がされており、道路法で町道認定になると、不特定多数の方が通る。通り抜けになり、入居者への安心安全という事を考慮され、道路法による道路認定でなく敷地内の生活空間として、宅地敷地の通路での位置付けの方が妥当と判断した。との答弁でありました。

その後、質疑もなく、討論もなし、採決に入り、原案どおり全員賛成にて可決と決しました。

議案第 10 号町道路線の変更について、本件は、16 年度災害による平谷橋仮設に伴う、関係する町道原円光寺線、原 4 号線の経過地の変更と起点終点を変更するものである。また、もう 1 件は、上月中学校敷地整備による、町道横原線、路善田堤防線の経過地変更により終点を変更しようとするものであります。

質疑を求めましたが、質疑もなく、討論もなく、採決に入り、原案どおり全員賛成にて可決と決しました。

議案第 14 号三日月木工加工施設の指定管理者の指定についてであります。

大久保農林振興課長に補足説明を求めたところ、平成 16 年 6 月から指導員の怪我等あり、閉鎖する状況になり、その後は申し込みがあれば指導員が行って、その時、開館していた。合併後森林組合から町の方へ運営が移行、町が現在運営することになっており。指定管理者制度が昨年 9 月から法的な改正があり、昨年 4 月から公募をし、結果的に 1 名の方が、今回の申請が出て来た。町で協議の結果、今回指定管理者に指定することになった。町条例もありその運営に沿った運営の仕方を基本に、管理運営については、施設の整備、スペースを有効に活用し観光施設とともに活用する、木工技術の伝承、普及を目的とし木工教室やイベントを行う。サービスの向上のため土日等の利用も時間を設ける。利用者の要望は月 2 回程度の木工教室を通じてコミュニケーションを図る。利用者のトラブルについては利用規約等をつくり契約書を書いてもらうことを考えている。町条例に基づくような内容を勘案して、指定管理者として申請してもらっている。テノン合同会社の経歴は、代表者は有限責任者として迎山直樹さんである。との説明がありました。

質疑に入り、電気、水道料の経費、使用料はどうか。農林振興課長、維持管理費全て持ってもらおう事で話をしている。町の施設なので収益が上げれば使用料を貰うとの答弁であります。

質疑に、迎山さんは、住所は三日月町に持ってくるのか。農林振興課長、全部持って来て、ここで、住居を構えて、中心的にやる予定である。

その後、質疑もなく、討論もなく、採決の結果、原案どおり、全員賛成にて可決と決しました。

以上です。

議長（西岡 正君） 産業建設常任委員長の審査報告は終わりました。

各議案ごとに委員長報告についての質疑及び討論、採決を続けて行いますのでよろしくお願いたします。

議案第 9 号町道路線の廃止についての委員長の報告について質疑に入ります。質疑ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、討論を終結いたします。

本案について採決に入ります。

議案第9号町道路線の廃止について、委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。

続いて、議案第10号町道路線の変更について、委員長報告について質疑に入ります。質疑ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。

これより本案について、討論に入ります。討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようでございますので、討論を終結いたします。

本案について、採決に入ります。

議案第10号町道路線の変更について委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって、本案は、可決されました。

議案第14号三日月木工加工施設の指定管理者の指定について、委員長報告に対して質疑に入ります。質疑ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） 討論はないようでございますので、討論を終結いたします。

本案について採決に入ります。

議案第14号三日月木工加工施設の指定管理者の指定について、委員長の報告は可決であります。

委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって本案は、原案のとおり可決されました。

ここで、休憩に入りたいと思います。再開を、午後 1 時といたします。

午前 11 時 50 分 休憩

午後 01 時 00 分 再開

議長（西岡 正君） それでは、休憩を解き会議を再開いたします。

日程第 11 . 日程第 12 ないし日程第 26 について（委員長報告）

議長（西岡 正君） 日程 11 に入ります。日程第 12 ないし日程第 26 を一括上程いたします。

議案第 54 号、平成 19 年度佐用町一般会計予算案の提出について。

議案第 55 号平成 19 年度国民健康保険特別会計予算案の提出について。

議案第 56 号平成 19 年度佐用町老人保健特別会計予算案の提出について。

議案第 57 号平成 19 年度佐用町介護保険特別会計予算案の提出について。

議案第 58 号平成 19 年度佐用町朝霧園特別会計予算案の提出について。

議案第 59 号平成 19 年度佐用町簡易水道事業特別会計予算案の提出について。

議案第 60 号平成 19 年度佐用町特定環境保全公共下水道事業特別会計予算案の提出について。

議案第 61 号平成 19 年度佐用町生活排水処理事業特別会計予算案の提出について。

議案第 62 号平成 19 年度佐用町西はりま天文台公園特別会計予算案の提出について。

議案第 63 号平成 19 年度佐用町笹ヶ丘荘特別会計予算案の提出について。

議案第 64 号平成 19 年度佐用町歯科保健特別会計予算案の提出について。

議案第 65 号平成 19 年度佐用町宅地造成事業特別会計予算案の提出について。

議案第 66 号平成 19 年度佐用町農業共済事業特別会計予算案の提出について。

議案第 67 号平成 19 年度佐用町石井財産区特別会計予算案の提出について。

議案第 68 号平成 19 年度佐用町水道事業会計予算案の提出については、所管の予算特別委員会に審査を付託いたしておりましたので、これより予算特別委員会委員長の審査報告を求めます。

予算特別委員会委員長、吉井秀美君。

〔予算特別委員長 吉井秀美君 登壇〕

予算特別委員長（吉井秀美君） 失礼します。

ただ今より、予算特別委員会報告をさせていただきます。

委員会は、平成 19 年 3 月 9 日金曜日、午前 9 時 30 分から午後 6 時 10 分及び 12 日月曜日、午前 9 時 30 分から午後 8 時 20 分まで行いました。

委員会開催場所は、役場 3 階、議場。

出席者、議員、町長、助役、教育長、西はりま天文台公園長、消防長及び担当課長、議会事務局長、代表監査委員。

9 日の欠席者は、新田俊一議員、葬儀のため。内山福祉課長、お父様のご不幸のため。

松尾文雄議員、病気治療のため午後 2 時 50 分早退。坪内教育推進課長が職務のため、4 時 50 分に退席。

12 日の欠席者、大橋税務課長、申告事務のため。松尾文雄議員、病気治療のため午後 3 時 25 分早退。高木照雄議員、奥様の介護のため午後 5 時早退。7 時 55 分、井村スポーツ振興課長が、会議のため退席。

付託案件は、議案第 54 号から議案第 68 号、これにつきまして質疑を、ただ今より抜粋で報告いたします。

議案第 54 号平成 19 年度佐用町一般会計予算案の提出について。

一般会計歳入、5 款町税では、町民税、法人税、固定資産税、軽自動車税の滞納について、税の公平性の観点から計画を達成できるよう努力を求める意見。定率減税の廃止と税源委譲による税率引き上げの影響額はどうなっているか。住民税で最高に上がる人は何倍になるか。不能欠損を出さない手立てを講じること。固定資産評価替えの影響は。

昨年の税制改正で住民税が非課税から課税に転換した人、関連して国保税、保育料などに影響してくるが、住民への説明が必要だ。

10 款地方譲与税から地方譲与税、15 款利子割交付金、16 款配当割交付金、17 款株式譲渡所得割交付金、18 款地方消費税交付金、20 款ゴルフ場利用税交付金、25 款自動車取得税交付金、27 款地方特例交付金、30 款地方交付税、35 款交通安全対策特別交付金では、減税補填特例交付金が無くなり激変緩和策としての特例交付金について。地財計画に基づく地方交付税の減額について。新型交付税について。

40 款分担金及び負担金、45 款使用料及び手数料では、指定管理者制度導入による施設使用料について。情報通信基盤整備事業について、全戸加入を目指さないか。10 数億円の事業を報告という形で進めたための問題が今時点で噴出してきている。衛生手数料の減額理由は。石井のゲートボール場利用料について、多目的利用に開放するべきだ。

西新宿診療所の利用度は。体育館使用料、文化センター使用料収入について、けんこうの里三日月の今後の方針について。

50 款国庫支出金では、児童手当、障害者支援など制度改定による問題。

55 款県支出金では、地籍課に職員を増員し、調査のスピードを上げないか。スクールアシスタント 2 名の配置により、全障害児の対応ができるか。災害救助負担金について、平成 16 年の台風に対する県の制度が最終年になるが、支援漏れはないか。地方バス等公共交通維持確保対策補助金の増は、利用者の増か。テクノにエコハウスを県が作るが、どういう事業か。

60 款財産収入、65 款寄附金、70 款繰入金、75 款繰越金、80 款諸収入、85 款町債では、住宅新築資金貸付金元利収入の現年度分としての計上は何年までか。他市町から何人の保育園児を受け入れているか。情報通信基盤整備事業は合併特例債ではできないのか。

一般会計歳出、10 款総務費では、地域づくり協議会活動補助金について。庁舎清掃や電気保安管理、消防設備保守点検など職員が資格を取得し、外部委託を減らすことは考えないか。住基カード設備に大金をかけたが、普及していない。三日月駅前から光都へのバス路線をどのように検討しているか。

15 款民生費では、学童保育の見込み数は。老人福祉センターの工事内容は。後期高齢者医療の保険料はどれくらいになるか。住民の声を聞く窓口開設を求める。シルバー人材センターほか、施設に職員を派遣してはどうか。役場は障害者の雇用率を達成しているか。西播磨児童デイサービス事業を始めるが、希望者が十分利用できるか。不妊治療支援補助金の拡充について。ごみ収集車のハイブリット化を考えないか。

25 款農林水産業費では、鹿等による被害の把握と罟、檻の資格取得に支援を。農業振興組織への補助金について再検討が必要。風倒木処理の遅れについて。農地・水・

環境保全向上対策活動計画は何集落か。 里山エリア再生事業の条件について。

30 款商工費では、 商工会の合併の進捗状況、1 極集中にならないように指導を。 大型店との競合、商工会の一本化で活性化への計画はあるか。

35 款土木費では、 急傾斜地崩壊対策は緊急度の高い箇所から見直しを。 町営住宅の光ファイバー工事費負担について。

40 款消防費では、 三原地区、三日月地域は、光都が近いので、赤穂消防署との委託業務の範囲に入れるべきだ。 住宅用火災警報器の普及はどのようにしているか。補助はどうなったか。 消防団員の減少傾向、地域の体制作りについて。

45 款教育費では、 栄養教諭制度について。 就学援助率の推移について、基準の見直しについて。 全国一斉学力テストの弊害を指摘する意見があるが、実施するのか。 教員の健康管理について。 文化財サミットの提案。

50 款災害復旧費では、 災害復旧工事箇所はどこか。

55 款公債費では、 金利が 5 パーセント以上の起債の借り換え、償還制度を積極的に利用すべきだ。等の質疑があり、討論、採決をおこない、賛成多数で原案を可決しました。

続いて、議案第 55 号平成 19 年度佐用町国民健康保険特別会計予算案につきまして、保険料の滞納問題。 資格証の発行について、社会的弱者は除外しているか。 保険証の郵送について。等の質疑の後、討論採決を行い、賛成多数で原案を可決しました。

議案第 56 号平成 19 年度佐用町老人保健特別会計予算案では、 18 年に老人保険保健が変わり 3 割負担の出現はどうか。 患者負担の上限以上の償還は全てなされているか。等の質疑があり、討論、採決をおこない、賛成多数で原案を可決しました。

議案第 57 号平成 19 年度佐用町介護保険特別会計予算案では、 保険料の滞納問題。 プラン難民という事態は起きていないか。等の質疑があり、討論、採決をおこない、賛成多数で原案を可決しました。

議案第 58 号平成 19 年度佐用町朝霧園特別会計予算案では、質疑討論はなく、賛成全員で原案を可決しました。

議案第 59 号平成 19 年度佐用町簡易水道事業特別会計予算案では、 佐用ゴルフ場の給水を 2 口から 1 口にすることによる使用量減の見込みは過少ではないか。 休止料金問題。等の質疑があり、討論採決をおこない、賛成多数で原案を可決しました。

議案第 60 号平成 19 年度佐用町特定環境保全公共下水道事業特別会計予算案では、 管理費、委託料等でのスケールメリットは予算にどう反映されているか。 雨水対策事業の設計根拠に 16 年の台風被害の教訓は生かされているか。等の質疑があり、討論はなく、賛成全員で原案を可決しました。

議案第 61 号平成 19 年度佐用町生活排水事業特別会計予算案では、 加入率について。の質疑があり、討論はなく、賛成全員で原案を可決しました。

議案第 62 号平成 19 年度佐用町西はりま天文台公園特別会計予算案では、 望遠鏡の保守管理は、随契委託にしているのか。の質疑があり、討論はなく、賛成全員で原案を可決しました。

議案第 63 号平成 19 年度佐用町笹ヶ丘荘特別会計予算案では、 介護拠点施設としての利用拡大について。 賄い材料仕入れに改善点はないか。の質疑があり、討論はなく、賛成全員で原案を可決しました。

議案第 64 号平成 19 年度佐用町歯科保険特別会計では、 診療報酬、医師報酬の増減について。の質疑があり、討論はなく、賛成全員で原案を可決しました。

議案第 65 号平成 19 年度佐用町宅地造成事業特別会計予算案では、 不動産売り払い価格は、諸経費にいくらか上乗せしているか。条件を緩和しても売り払う方針はないのか。の質疑があり、討論はなく、賛成全員で原案を可決しました。

議案第 66 号平成 19 年度佐用町農業共済事業特別会計予算案では、予定引き受け面積の変更はできるか。の質疑があり、討論はなく、賛成全員で原案を可決しました。

議案第 67 号平成 19 年度佐用町石井財産区特別会計予算案では、質疑討論はなく、賛成全員で原案を可決しました。

議案第 68 号平成 19 年度佐用町水道事業企業会計予算案では、次年度以降も大きな資本的支出は出るか。メーター検針員の荷重の偏重について。の質疑があり、討論はなく、賛成全員で原案を可決しました。

全 15 会計の予算案審査を終え、委員会は、午後 8 時 20 分に閉会しました。

全議員で構成しました予算特別委員会ですので、概要のみの委員長報告とさせていただきます。会議録全文並びに詳細については事務局で閲覧をお願いします。

以上、報告を終わります。

議長（西岡 正君） 予算特別委員長の審査報告は終わりました。

各議案ごとに委員長報告についての質疑及び討論、採決を続けて行いたいと思いますのでよろしく願いいたします。

議案第 54 号平成 19 年度佐用町一般会計予算案の提出についての委員長報告に対しての質疑に入ります。質疑のある方。ございませんか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。

これより本案について討論に入ります。討論ございますか。

〔金谷君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、金谷英志君。

6 番（金谷英志君） 議案第 54 号平成 19 年度佐用町一般会計予算案の反対討論をいたします。本会計予算案の根本的な問題の 1 つは、行政腐敗の要因になりかねない不公正な入札制度の温存にあります。18 年度の入札状況を見ても、その 6 割近くが、落札率 95 パーセント以上であり、ほとんどが 1 位不動の法則どおりである異常な実態であります。

町長は、議会でこの問題を指摘され、予定価格の範囲内であり、適正だとの答弁を繰り返していましたが、もはや、このような言い訳が通用しない事は明白であります。早急に、この行政姿勢は改めるべきであります。

2 つ目は、町長の行政姿勢の問題です。この間の答弁で、昨年 12 月議会において火災報知機の住宅設置には、補助を考えるとしていましたが、この 3 月議会では補助はしないとの回答や子どもの医療費助成拡充の問題では、新聞報道を受け、医療費無料化を求める声に、その方向であるとしていましたが、無料化はなりませんでした。責任ある答弁を求めます。

3 つ目は、国の悪政への追従であります。19 年度国家予算を見ると、安部首相が掲げる成長戦略の元で、異常なまでの大企業中心の経済政策の推進のための予算となっている一方で、定率減税の廃止や生活保護の削減に示されるように、国民への負担増と給付切り下げは無慈悲に継続、推進する内容となっています。これは社会的格差と貧困を更に拡大するものです。町は、これらが無批判に受け入れるのではなく、自治体本来の役割である、住民福祉の向上に努めるべきであります。

では、項目毎に指摘してまいります。

歳入では、町民税は、定率減税の廃止や住民税と所得税の税率の変更により、6月に町民税が上がります。低所得者への激変緩和措置を取るべきであります。

地方交付税では、従来の前年度当初予算に地方財政計画の減額率を乗じて、計算上していた手法を改め、前年度実績による算出方法にした事は、一步前進であります。本予算の地方財政計画の一律4.4パーセント減の予算計上は適切ではありません。固定資産税の評価替えは、増税になるものであり、やめるべきであります。

住宅新築資金、生業貸付資金貸付については、ゴルフ場の固定資産、固定資産税滞納処分に見られるような、滞納回収、債権保全の厳格な措置を取るべきであります。また起債の償還については、地財計画の金利5パーセント以上の起債は、繰替え償還の措置を求めべきです。これは、佐用町の将来の財政改革に重要な意味を持つものであります。

次に、歳出では、議会費の議員費用弁償は、報酬の二重取りとも言えるもので、廃止するべきであります。

総務費では、情報通信基盤整備事業の活用方向が明確ではありません。この事業は、1、テレビのデジタル化に対応する。2、ラジオのFM放送の受信。3、通信速度の確保を目的に全町域が対象としていました。しかし、当初から1,000戸と公共施設の一部を除外するというのは、町の事業説明と矛盾いたします。

次に、支所機能の充実という合併当初の方針を堅持すべきであります。町民の声は、支所に権限を持たせ、現地解決して欲しいというものであります。

次に、住基ネットは、国の政策で多額のシステム費をかけてきましたが、カード作成委託料が6万円という程度では、住民の利便性が向上したとは言えず、むしろ個人情報の漏洩が危惧されます。

民生費では、外出支援サービスの全町域拡大は、評価できますが、利用料軽減の声に答えるべきであります。新しく導入される後期高齢者医療制度は、県域に拡大され、ますます住民からかけ離れてまいります。高齢者の意見が充分取り入れられべきであります。

障害者福祉では、障害者自立支援法が昨年4月から施行され、1割負担によって、障害者とその家族に大幅な負担増をし、障害が重く制度利用の多い人程、負担が大きくなっています。利用者の実態把握と負担の軽減が求められています。伊丹市では、県下に先駆けて、市独自の負担軽減策を作っています。

保育所の時間外保育の充実を図るべきであります。

次に、乳幼児医療費の助成は、県に上乘せして、小学校6年まで拡大した事は評価できますが、6年までなら月700円、2回の負担もなくし無料化すると共に立て替え払いも改めるべきであります。福崎町の計画では、事務はさほど煩雑にならないし、町の負担も少額としています。学童保育は、国の制度実施を待つまでもなく、全小学校区で実施を目指し、できる所から早急に取り組むべきであります。

衛生費では、ごみの減量化にもっと進め、にしはりま環境事務組合で計画している大型処理施設建設の見直しを図るべきであります。ガス化熔融路については、安全管理上の技術的問題と共にメーカーごみの談合が常態化しており、住民に損害を与えたとして、メーカーには返還命令が。自治体広域組合には、告発を怠ったとの判決が相次いでいます。

次に、農林業費では、農業団体の助成については、各団体の声を聞き、生産販売の促進を図れる体制を急ぐべきであります。政府が戦後農政のあり方を大きく転換した品目横断的経営安定対策の大規模農家中心の農業経営では、本町の農地、農家は守れません。農地水環境保全向上対策など、施策の有利な点は取り入れつつも、本町に合った家族経営、高齢者ができる小規模農家への支援こそすべきであります。

商工費では、町発注の小規模工事登録制度、住宅リフォーム助成制度の導入や物品購入

については、町内業者育成の立場で構成に実施すべきであります。

土木費では、平成 17 年度から 21 年度で、事業計画を立てている過疎地域自立促進計画によると、19 年度は、橋梁費として 1 億 4,100 万円の計画であります。本予算の橋梁新設改良費は、2,600 万円の計上です。橋梁新設拡幅は、合併時の約束であり、計画は履行すべきであります。

住宅管理課を事務量の減少と行革の一環で統合するとのことですが、旧町毎に取り組んで来た、町営住宅整備計画を新町で改めて明示すべきであります。

消防費では、非常備消防体制を実態に合ったものに、体制を整備すべきであります。播磨科学公園都市消防業務委託の委託範囲の拡大を検討すべきです。町長は、協定の見直しは、町負担が多額になるとの考えですが、光都消防署の能力は、範囲拡大に今の整備で充分対応できるものであります。

次に教育費では、社会教育を本来の業務である町教育委員会に戻すべきであります。学力テストが全国一斉に、この 4 月に実施されますが、この学力テストについては、全国の小学校の序列化に繋がる。子どもと教師を更に競争に追い込むとの指摘もあります。国の事業として実施する事から、町の負担はないにしても、実施は慎重にすべきであります。

次に、支所を旧町毎の小中学校に配置するよう県に要求すべきであります。農業振興の面からも、学校給食に地元農産物の使用率を上げて行くべきです。スポーツ、文化の発展の為に、体育施設、文化施設の使用料は、町民が使用する場合は、条件を柔軟に運営し、減免の拡大を図るべきです。利神城、平福の町並み、三日月陣屋など歴史遺産の整備計画を具体化し、早急に実施すべきであります。

以上、公正な入札制度、公式答弁に対する責任感、国政追随の町長の姿勢を指摘して反対討論といたします。

議長（西岡 正君） はい、他にありますか。

〔大下君 挙手〕

議長（西岡 正君） 大下吉三郎君。

12 番（大下吉三郎君） 一般会計につきましての、賛成討論を行いたいと、このように思います。

本予算については、賛成討論をいたします。

本予算は、非常に厳しい社会情勢の中で、景気は依然として低迷し、国、地方を取り巻く財政は、ますます厳しくなっております。本町においても、収益の落ち込みまた地方分権による国、県からの権限委譲、行政改革の推進などによって、地方交付税また補助金等の減収も去ることながら、一段と厳しい状況にあります。

学校施設整備また光通信施設整備、上下水道の推進など保健福祉地域福祉の向上、町民の健康づくりなど町民の幸せのためにあらゆる事業を計画実現されており、厳しい財政状況の中においても、健全な財政運営に努力されていることを評価して、本予算を認定することに賛成いたします。

〔敏森君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、敏森正勝君。

9 番（敏森正勝君） 同様に、賛成討論をいたします。

合併以前、計画案は、できていても、なかなか実行できなかった事業も合併した事によりまして、見通しが少しは明るくなりましたが、まだまだ財政的に厳しい状況であり、19年度予算案も投資的経費である主要事業も補助事業が主体であり、計上経費である各施設の運営に当たっても、必要とされるもの以外、減額した計画性の高い予算案であると確信しております。また、一般会計から国保特別会計をはじめ 14 の特別会計、合計にして約 17 億を繰り出す予算案であり、否決すると一般会計だけでなく、特別会計が麻痺をし、町民に不安感を走らせる行為となり、信頼ある美しい町政とは言えなくなる。よって、本予算案は適正であると確信し、賛成討論といたします。

〔矢内君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、矢内作夫君。

14 番（矢内作夫君） はい、14 番、矢内でございます。

平成 19 年度一般会計予算案に賛成の立場で討論をいたします。

平成 17 年 10 月に 4 町が合併、それから約 1 年半が経過をするわけですが、本格通年予算は、2 度目であります。平成 18 年度当初予算は 136 億 2,018 万 2,000 円でありました。19 年度は 127 億 745 万円でマイナス 9 億 1,073 万 2,000 円、6.7 パーセントのマイナス予算であります。非常に厳しい財政状況の中でギリギリの査定であった事を十分に理解をいたします。その中で、外出支援のサービスの拡充、小学生までの医療費の無料化、不妊治療への補助金の交付、今年度に引き続いての情報通信基盤整備事業、獣害防止柵の設置、地籍調査事業そして姫新線高速化事業、にしまりま環境ごみ資源化事業そしてまた円応寺橋改良事業等々、将来に向けての投資的事業も十分に盛り込まれております。ただ、人口 2 万 1,000 人の自治体の一般会計の規模として 127 億円が妥当であるかということ、決してそうではないと言わざるを得ません。1 年でも早く基準的な財政需要額で予算が組めるような行政機関体制の確立もまた必要であると言えますし、それも事実であります。その点についても、今後なお、一層の努力を求めるものであります。又先日の予算審査の中で、笹ヶ丘荘に対する繰上げ充用の話が出ました。この件に関しては、昨年決算議会でも問題視されており監査の意見書にも指摘されております。そういった事も、十分に考慮いただき予算執行される事を申し添え賛成討論といたします。

以上です。

議長（西岡 正君） はい、他に。ないようですから、討論を終結いたします。

本案について採決に入ります。

議案第 54 号平成 19 年度佐用町一般会計予算案の提出について、委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、多数であります。よって原案のとおり可決されました。

続いて、議案第 55 号平成 19 年度国民健康保険特別会計予算案の提出について、委員長報告の質疑に入ります。ありませんか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですから、質疑を終結いたします。
これより本案について、討論に入ります。討論ございますか。

〔鍋島君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、鍋島議員。

21 番（鍋島裕文君） 21 番、鍋島です。

私は、平成 19 年度国民健康保険特別会計予算案の反対討論をいたします。

本会計は、自営業者や年金生活者等比較的所得の低い方が加入する、町民の命と健康を守る上で、重要な役割を持つ保険制度の会計であります。しかし、この間国は、当然国が責任を負わなければならない負担を地方自治体に転嫁し、過酷な国保税の徴収を地方自治体に強制するという欠陥だらけの国民皆保険制度に改悪して来たものであります。本町での問題は、この事を前程としながらも、被保険者の負担をできるだけ軽減する事に、心を砕く自治体行政が行われているかどうかという事であります。平成 17 年度決算でも、7,500 万円を超える滞納額となっている国保税の実態は、少なくない加入者にとって、払いたくても払えない程の税額になっていると言わなければなりません。昨年度、当初予算では、旧三日月町の国保加入者の国保税が、中間所得者のモデルケースの資産で、33 パーセントもの引き上げになることから、激減緩和措置が、強く求められましたが、この声は無視され強行されました。この時の当局見解は、準備基金 4,321 万円を取り崩さなければ、予算が組めない程、ひっ迫した会計状況であるという事でありました。ところが、その 3 月議会に提案された補正予算では、最終的な基金取り崩しは 1,100 万円程で 3,000 万円が繰入減額されています。これは結果として、負担軽減が可能であった事を裏付けるものであります。このように、本予算の最大の問題は、現行の高い国保税の減額措置が取られていない事であります。一般会計からの繰入を増額して、国保税の引き下げを実施すべきであります。世帯当たり平均 1 万円の国保税の引き下げを実施するためには、約 2,600 万円。これは、国保加入世帯を 2,620 世帯として、1 万円を乗じた数字であります。の一般会計からの繰入で実現できます。また、国保税滞納者の資格証明書発行の保険証の取り上げは、事の重大性から見て基本的に止めるべきであり、取り分け子どものいる家庭への行使は、即刻止める事を求め、反対討論といたします。

議長（西岡 正君） はい、他に。ありませんか。

〔敏森君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、敏森正勝君。

9 番（敏森正勝君） 賛成討論を行います。

賛成討論を行います。過疎化と高齢化により年々医療費が高くなり、国保税はもとより一般会計からの繰入金及び基金の取り崩しを行い、調整をしている予算案であります。この予算案を否決すると町政をはじめ町民を苦しめる結果となり、私達の本来のあるべき姿ではなく、意に反する行為であり、本予算案は適正であると確信し、賛成討論といたします。

議長（西岡 正君） はい、他に。ないようですから、討論を終結いたします。
本案について採決に入ります。

議案第 55 号平成 19 年度国民健康保険特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、多数であります。よって原案のとおり可決されました。

続いて、議案第 56 号平成 19 年度佐用町老人保健特別会計予算案の提出について、委員長報告に質疑に質疑のある方。

議案第 56 号、平成 19 年度佐用町老人保健特別会計予算案の提出について委員長の報告の質疑に入ります。質疑のある方。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですから、質疑を終結いたします。

これより本案について、討論に入りますが、討論ございますか。

〔金谷君 挙手〕

議長（西岡 正君） 金谷英志君。

6 番（金谷英志君） 議案第 56 号平成 19 年度佐用町老人保健特別会計予算案の反対討論をいたします。

高齢者の生活は、住民税の増税で公的年金控除の最低保障額が 140 万円から 120 万円に引き下げられ、老齢者控除の廃止、老齢加算の廃止などにより実質所得は減っているなかで、老人医療はこの間自己負担が 1 割から 2 割へ、定率から定額へと変わり、治療が終わるまで医療費がいくらいるかわからないという不安を抱えています。現役並み所得の人は窓口負担 2 割から 3 割になっています。この老人保健会計は、後期高齢者医療制度に移行し 19 年度が最後になりますが、発足以来、高齢者の医療費負担増を重ねてきたことを指摘して反対討論といたします。

議長（西岡 正君） はい、他にございますか。

〔敏森君 挙手〕

議長（西岡 正君） 敏森正勝君。

9 番（敏森正勝君） 賛成討論をいたします。

国保会計同様、高齢化が進み、医療費増により支払交付金、国、県補助金または一般会計からの繰入金により調整した予算案であり、この予算案も否決すれば高齢者を苦しめる結果となりますので、本予算案についても賛成討論といたします。

議長（西岡 正君） はい、他にございますか。

ないようですから、本案についての討論を終結いたします。

本案について採決に入ります。

議案第 56 号平成 19 年度佐用町老人保健特別会計予算案の提出について、委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、多数であります。よって原案のとおり可決されました。

議案第 57 号平成 19 年度佐用町介護保険特別会計予算案の提出について、委員長報告に対して質疑に入ります。ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。

これより本案について討論に入りますが、討論ございますか。

〔笹田君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、笹田鈴香君。

5 番（笹田鈴香君） はい、笹田です。

私は、議案第 57 号平成 19 年度佐用町介護保険特別会計予算に反対の討論をいたします。介護したくてもできない家族のため、老後、安心して介護が受けられるように公的制度で補おうというのが、平成 12 年 4 月 1 日から始まった介護保険制度です。ところが見直しの度に保険料は引き上げられ、サービスは低下しています。特に一昨年の 10 月からはホテルコスト、食費が 1 割負担から全額負担になり、利用者また家族の負担が増えたため、佐用町でもショートステイやデイサービスの回数を減らした人さえあります。更に、昨年 4 月 1 日から第 1 号被保険者保険料が引き上げられました。今まで国と自治体でやって来た介護予防に関する事業を地域支援事業として介護保険の中に再編、吸収した事は、国の公的責任の後退です。これまでの要支援と要介護 1 の大部分の介護度の軽い人達を要支援 1、2 として新予防給付に移しました。そのため、利用していたベッドや車椅子などの貸与が受けられなくなった人もいます。また実際に利用したい日に行かれない。利用したい施設が利用できないというのも現実です。サービスの後退は許す事はできません。昨年の 9 月議会で浦安市が保険料や利用料の減免を実施している事を例に上げましたが、保険料や利用料の独自の減免制度を行っている自治体は、昨年度の 4 月時点で保険料では 555 自治体、これは全国の 3 割に当たります。利用料では 395 自治体となっています。例を上げてみますと、京都の美山町では、保険料の第一段階、第二段階の人に対して、保険料相当額の 4 分の 1 を一般会計から繰入をしています。また東京の武蔵野市では、全ての要支援、要介護認定者を対象に、訪問介護、通所介護、通所リハビリの 3 つのサービスの利用者負担を 3 パーセントに軽減しております。また、利用料で言いますと、旧佐用町と南光町、この両町では、平成 16 年度まで訪問入浴料の町独自で減免をしておりました。それが合併をして他の町に合わすからという事で、これを廃止してしまいました。何度も言いますが、是非佐用町でも独自の減免を実施するよう強く求めて反対の討論といたします。

議長（西岡 正君） 他にございますか。

〔敏森君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、敏森正勝君。

9 番（敏森正勝君） 賛成討論をいたします。

高齢化に伴い、介護を必要とする人が増加しており、介護をしてもらう人の悲しさ、寂しさ、そして介護をする人の立場から必要な会計である事は、言うまでもありません。本予算案も介護保険料をはじめ、国、県より補助金、一般会計からの繰入金によつての予算案であります。本予算案についても、安全、安心のまちづくりのために工夫したものであります。よつて、本案は適正であると確信し、賛成討論といたします。

議長（西岡 正君） はい、他にございますか。

これを以つて討論を終結いたします。

本案について採決に入ります。

議案第 57 号平成 19 年度佐用町介護保険特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、多数であります。よつて原案のとおり可決されました。

議案第 58 号平成 19 年度佐用町朝霧園特別会計予算案の提出について、委員長の報告に対して質疑に入ります。質疑のある方。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですから、質疑を終結いたします。

続いて討論に入りますが、討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、討論を終結いたします。

これより本案について、採決に入ります。

議案第 58 号平成 19 年度佐用町朝霧園特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よつて原案のとおり可決されました。

議案第 59 号平成 19 年度佐用町簡易水道事業特別会計予算案の提出について、委員長報告に対して質疑に入ります。質疑のある方。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですから、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論ございますか。

〔金谷君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、金谷英志君。

6番（金谷英志君） 議案第59号平成19年度佐用町簡易水道事業特別会計予算案の反対討論をいたします。

問題は、18年度予算でも指摘したように三日月簡易水道の大幅な水道料の値上げの継続であります。私は、18年度予算案の討論で、この値上げによって三日月簡易水道加入者は、2割を超える負担増になった。合併についての説明では負担は軽くという事であった。簡易水道は事業としては、それぞれ独立しており料金体系を同じに設定する必要はなく、統一するなら三日月簡易水道に合わせて住民の負担を軽減すべきであり、せめて激変緩和措置を取るべきであったと指摘しましたが、上下水道審議会は開かれる事なく水道料金の妥当性は正されておられません。次に、佐用ゴルフ場の給水措置は、契約当初のいきさつからして問題を残すものであることを指摘して反対討論といたします。

議長（西岡 正君） はい、他に。

ないようですから、討論を終結いたします。

議案第59号平成19年度佐用町簡易水道事業特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、多数であります。よって原案のとおり可決されました。

議案第60号平成19年度佐用町特定環境保全公共下水道事業特別会計予算案の提出について、委員長の報告についての質疑に入ります。質疑のある方。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですから、質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないので、討論を終結いたします。

本案について採決に入ります。

議案第60号平成19年度佐用町特定環境保全公共下水道事業特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。

議案第61号平成19年度佐用町生活排水処理事業特別会計予算案の提出について、委員長の報告に対して質疑に入りますが、ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。
これより討論に入りますが、ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） 討論を終結したいと思います。
本案についての採決に入ります。

議案第 61 号平成 19 年度佐用町生活排水処理事業特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。
続いて、議案第 62 号平成 19 年度佐用町西はりま天文台公園特別会計予算案の提出について、委員長報告に対しての質疑に入りますが、ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。
これより討論に入りますが、ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、討論については、終結いたします。
本案について、採決に入ります。

議案第 62 号平成 19 年度佐用町西はりま天文台公園特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。
議案第 63 号平成 19 年度佐用町笹ヶ丘荘特別会計予算案の提出について、委員長の報告に対しての質疑に入りますが、ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。
これより本案についての討論に入りますが、討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、討論を終結いたします。

本案についての採決に入ります。

議案第 63 号平成 19 年度佐用町笹ヶ丘荘特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。

議案第 64 号平成 19 年度佐用町歯科保健特別会計予算案の提出について、委員長の報告に対して質疑に入ります。ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、討論を終結いたします。

本案について採決に入ります。

議案第 64 号平成 19 年度佐用町歯科保健特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって本案は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第 65 号平成 19 年度佐用町宅地造成事業特別会計予算案の提出について、委員長報告に対しての質疑に入ります。質疑ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですから、質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、討論を終結いたします。

本案について採決に入ります。

議案第 65 号平成 19 年度佐用町宅地造成事業特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長の報告に対して可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。

議案第 66 号平成 19 年度佐用町農業共済事業特別会計予算案の提出について、委員長の報告に対しての質疑に入りますが、ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。
これより討論に入りますが、討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、討論を終結いたします。
これより本案について採決に入ります。
議案第 66 号平成 19 年度佐用町農業共済事業特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。
続いて、議案第 67 号平成 19 年度佐用町石井財産区特別会計予算案の提出について、委員長の報告に対しての質疑に入りますが、ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。
これより討論に入りますが、ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、討論を終結いたします。
本案について採決に入ります。
議案第 67 号平成 19 年度佐用町石井財産区特別会計予算案の提出について、委員長の報告は可決であります。委員長の報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって原案のとおり可決されました。
議案第 68 号平成 19 年度佐用町水道事業会計予算案の提出について、委員長の報告に対しての質疑に入りますが、ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。
これより本案について討論に入りますが、ございますか。
ないようですので、討論を終結いたします。

〔岡本安君 挙手〕

議長（西岡 正君） 討論ありますか。岡本安夫君。

13 番（岡本安夫君） 質疑じゃないんです。実は、その今、議案読み上げられた時にね、水道事業会計とおっしゃったんですけど、これ正確には、水道事業企業会計ということで、議案は、正確に読まれた方がいいんじゃないんでしょうか。

議長（西岡 正君） はい、分かりました。先ほどの指摘であります。議案第 68 号、平成 19 年度佐用町水道事業会計予算案の提出についてであります。お詫びをいたします。

〔「企業が抜けとんや。企業会計」と呼ぶ者あり〕

議長（西岡 正君） 水道事業が抜けておりました。訂正してお詫びをいたします。これについて、討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、討論を終結いたします。

本案について採決に入りますが、議案第 68 号平成 19 年度佐用町水道事業会計予算案の提出について、委員長報告は可決であります。委員長の報告のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって本案は可決されました。

日程第 27 . 外出支援サービス調査に関する調査報告について（委員長報告）

議長（西岡 正君） 日程第 27 に移ります。

外出支援サービス調査に関する調査報告についてを、議題といたします。

本件について、委員長の審査報告を求めます。

外出支援調査特別委員会委員長、川田真悟君。

〔外出支援調査特別委員長 川田真悟君 登壇〕

外出支援調査特別委員長（川田真悟君） 失礼いたします。

佐用町外出支援調査特別委員会からの報告でございます。

今回の委員会の報告は、委員会内容ではございませんで、最終的に、一応特別委員会の目的が達成されたために終了する報告でございます。

一応、前委員会開かれましてので、内容を簡単に開催日だけ報告して、その趣旨を説明させていただきます。外出支援調査特別委員会につきましては、昨年の 5 月臨時会に委員会ができまして、以来平成 18 年 6 月 1 日、第 1 回の特別委員会が開催され、以降 18 年 6 月 14 日、18 年 7 月 25 日、18 年 8 月 1 日、18 年 8 月 21 日、18 年 9 月 25 日、計 6 回の

特別委員会を開催いたしました。

なお、7月25日は、淡路島の方に先進地の視察を行っております。また、委員長報告につきましては、第9回の定例会外出支援の中で、第9回の定例会におきまして、18年の9月21日また18年の10月16日には、最終的な委員会報告をさせていただいております。

尚、だいたいの、先ほども言いましたように、当初の委員会の目的が概ね達成された模様でありますので、委員会を終了させていただきたいと思っております。審査の結果につきましては、平成19年の2月よりさよさよサービスの運行、ここには、ちょっと、このさよさよサービスだけではございませんので、福祉タクシーのサービス等もございまして、等の運行によりをちょっと記入させていただきたいと思っております。

尚、この委員会を終了するためには、3月定例会までに議会運営委員会の中でも協議させていただき、また後、課題といたしましては、実施等の後の調査等も残っておりますけれども、2月より実施のため、まだ実績等も少のうございまして、それにつきましては、常任委員会、所管の厚生常任委員会の中でも調査できるという事で、委員会の了解も得ておりますので、一応この議会をもちまして特別委員会を終了させていただき事をご理解いただきまして、ご報告とさせていただきます。

以上でございます。

議長（西岡 正君） これより委員長の報告について質疑に入りますが、質疑ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですので、質疑を終結いたします。

これより本案について採決に入ります。この採決は、起立によって行います。

本件は、お手元に配布いたしました委員会報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者 起立〕

議長（西岡 正君） はい、起立、多数、全員ですか。全員であります。

よって外出支援サービス調査に関する調査報告については、委員会の報告のとおり決定されました。

これで、外出支援サービス調査に関する調査を終わります。大変ご苦労さんでした。

日程第28．議案第69号 工事請負契約の変更について（高度情報通信網整備事業）

議長（西岡 正君） 日程第28、議案第69号、工事請負契約の変更についてを議題といたします。

提案に対する当局の説明を求めます。町長、庵逄典章君。

〔町長 庵逄典章君 登壇〕

町長（庵逄典章君） それでは、ただ今、上程をいただきました議案第69号工事請負契約の変更につきまして、提案のご説明を申し上げます。

高度情報通信網整備事業、平成 18 年度光ファイバー敷設、南光三日月工区工事につきましては、日本電気株式会社姫路支店支店長、高見公三氏と工事費 5 億 5,815 万 6,900 円。内消費税 2,657 万 8,900 円で請負契約を締結し、工事を進めておりましたが、精算による変更により 690 万 600 円を減額するものでございます。内容は、伝送路の延長の増や、当初計画からの引き込み数量の減が主なものです。佐用町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第 2 条の規定に基づき議会の議決をお願いするものでございます。

ご承認を賜りますようお願いを申し上げ、提案の説明といたします。よろしく申し上げます。

議長（西岡 正君） 議案第 69 号工事請負契約の変更について提案に対する当局の説明が終わりました。

これより本案について質疑に入りますが、ございますか。

〔鍋島君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、鍋島裕文君。

21 番（鍋島裕文君） 減額理由の今の説明のあった、引き込み数量の減の事なんです、当初説明で、全体で 13 億 7,500 万円、これは、引き込み数量に係わらず 13 億 7,500 万円という説明で来てます。それとの関係で、引き込み数量の数によって、それが変わるのかな、加入者によらず総事業費 13 億 7,500 万円は同じだというのが当局説明ですね。それとの関係で、ちょっと説明お願いします。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） 変更の関係でありますけども、今回の変更理由につきましては、内容的には、大きなものは、引き込みの分が変わりました。そういう中で、金額的に出来高的には不足しておりますので、変更をさせていただいております。その内容につきましては、伝送路が 3.7 キロ程増えております。これにつきましては、ルート等の変更で鉄道の上を通れんとか、いろんな、この工事自体が通常の工事という事もありますし、設計施工という内容になっておりますので、そういう中で、鉄道等の迂回とか、いろんな、この変更の中で、3.7 キロ程増になっております。それから、もう 1 つの今ご指摘のありました、宅内の、宅内言うんか、引き込み工事の減でございますけれども、その分で、先ほどの方が 3.7 で、約 150 万程増加いたしておまして、それから宅内引き込みの分で、700 万。286 箇所程引き込み数が減になっております。そういう原因等につきましては、当初は、住基等の算定でいたしておりましたのと、後、施設等がありまして、その分を個人で計算する施設が 1 戸になるし、住民票等があるというような中での分。それから、一部春哉、志文等の関係の中で、その光ファイバー敷設しておる中で、加入数の減、そういうのを全体の中で減額になっております。その部分と、それから、その幹線上で、その伝送路の変更によりまして、そのクロージャ－言うて、そこから分岐しとんですけども、そういう幹線上のクロージャ－の部分に変更した分が 140 万程。それから建物で交換柱等を見ておったんですけども、その分が、その共架で済んだり、NHK 柱の分が借り入れたりというような事で全体として、690 万という額が減っております。

議長（西岡 正君） 改めてまちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） 変更の理由を先に言ってしもたんですけども、今回のように大きな変更が出て参りました。その分につきまして、今回引き込み数の分で不足しておりますので、変更させていただきました。

議長（西岡 正君） はい、よろしいですか。

〔鍋島君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、鍋島裕文君。

21 番（鍋島裕文君） 確認したいのはね、13 億 7,500 万円の問題なんですわ。4 町入れたね。基本的には、当局説明は、これは加入数の過少に係わらず、とにかく総事業費が 13 億 7,500 万円という説明をしてきました。その考えで言ったら、伝送路関係の変更や建物に共架にした時の関係や、それから入ろうと思っていた所が入らない。例えば、町内 1,000 戸は、予想通り入らないとかね、そういう事になった場合には、この 13 億 7,500 万円自体の変更があり得るかどうか。この考えで言えばあり得ますわね。その辺りは、どのように見たらいいんですか。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） ご指摘のとおり大きな変更の場合は、その分が、落ちて来るようになります。

〔鍋島君 挙手〕

議長（西岡 正君） 鍋島裕文君。

21 番（鍋島裕文君） 確認だけ、もう 1 点ね。

じゃあ、当初説明の関係から言うたら、加入数は関係ないんだと。ねっ、入ろうが入るまいが、とにかく全戸対象で 13 億 7,500 万円という事ですから、その引き込み加入数の関係は、大きな変更の中には入ってませんね。それ確認したいんですけど。

議長（西岡 正君） はい、まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） 当初の段階で、プロポーザルの中で、その示した分の、その中で、それから基本計画に基づく入札をされましたので、その後、設計施工でありますので、詳細を設計した中で、大きな変更が出て来たために、この減額したということです。

議長（西岡 正君） すいません、それが大きいんか、どうなんかという事を、ちょっと、今、

〔鍋島君「だから変更があり得るんか、加入数で」と呼ぶ〕

〔「あるんだったら、ある言うたらええんや」と呼ぶ者あり〕

〔まちづくり課長「あります」と呼ぶ〕

議長（西岡 正君） いいですか。他に。

〔松尾君 挙手〕

議長（西岡 正君） 松尾文雄君。

7番（松尾文雄君） まず、変更の理由として、先ほど出てますように、引き込みの数の減という事ですけども、現実問題としまして、引き込みが、まだ完了してないと思うんですよね。そやから、この予算になる、いわゆる根拠の部分がどうなってるのかな。まず、4月当初から運用開始と言われてましたけども、そういうふうな事も進んでない。現実引き込みも全部完了してないような状況の中で減額というのは、どういう事なんか。また、運用開始というのは、いつからの予定をしているのか。

議長（西岡 正君） はい、お答えください。

まちづくり課長（南上 透君） 工事の方につきましては、3月末までに完成するという流れの中で進んでおります。それで幹線の部分につきましては、ほぼ完成をいたしております。その中で、今ご指摘がありましたように、引き込み部分が、今現在、取りかかっているところでもあります。その中で、まあ、応援体制をかけて、今宅内へのクローガーからの引き込み工事にかかっているところです。それで、それを8班の編成をしまして、三日月、南光工区を今、おわえておる言いますか、ピッチを上げておるところでございます。それで、その引き込みができました所につきましては、その4月の1日から、その引き込みが終わった所につきましては、その宅内工事を始めて行くという考え方で、一斉にやなしに、出来上がった所からやっていくという流れになります。それで、光の通信の方につきましては、姫路の方から三日月までは、参っておりますので、その宅内の引き込みさえ終われば、そこで宅内までの、宅内言うんか、クローガーから入ったONUまでができれば、そこから宅内工事業者に発注して、宅内への引き込みができて行くということでございます。

議長（西岡 正君） ちょっと、あのですね、今言われたんは、宅内の引き込みが、まだできてないんで、それに減額はなぜかっていう事を聞かれてると思うんで、その事を、ちょっと答えてください。

まちづくり課長（南上 透君） それは、あのすんません。その分につきましては、申し込みの分担金等の絡みがあったんですけども、その中で、加入申し込みを受けました。その中で、申し込んで、お金が入って、その申し込みをいただいた分の数で考えております。その中で、予算、予算言うんか、そこの調整をさせていただいております。

議長（西岡 正君） 松尾議員よろしいか。

〔松尾君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、松尾文雄君。

7番（松尾文雄君） 加入申し込みの数で確認したという事やね。ほいで、まあ現実問題、全然未だONUにかかってないような状況があるんですよね。そやから、いわゆる一斉にはしないという、できた所から運用開始するという事やけど、当初、町の説明では4月から運用開始を一遍にしますよというような説明をして回ったわけでしょ。それやのに、今現在もONUも設置されてない。いつ設置して、いつ運用するかというのが明確にされてないんですよね。だから、これは要するに、いわゆる町の責任なのか、いわゆるこのNECの工事の遅れが原因なのか、もし工事の遅れが原因という事になってれば、それに対してのペナルティーというようなものを考えているのかどうか。とりあえず、まだ進んでないというのが現実やから、町として、どういうふうに、今後取り組んでいくんかな。

議長（西岡 正君） はい、お答え下さい。まちづくり課長。

まちづくり課長（南上 透君） まあ、4月からの運用開始にはなりますと言うんですけども、実際一遍に全体が、運用開始になるのではなく、工事が終わった所から運用開始になるという事で、それがまあ、契約上は、3月末までにONUまでは入るという計画でございました。その分は遅れておりますので、業者に対しまして、担当課としましても、町長等も含めて督励をさしていただきたいというように、思っております。それで、それをやって、後はまあ、地元業者の中で引き込みになります。それで、引き込みができた段階、そのONUを設置した段階で引き込み工事します。それから、費用につきましては、ちょっと遅れて徴収をするという事で、まあ自治会長さん宛てには、現在のこの状況につきましては、こういう大まかな状況ですという事を、ちょっとお知らせさせておるとんですけども、工事ができる限り早く督励してやらしたいというふうに思っております。

議長（西岡 正君） 業者に対してのペナルティーはっていう事で。

〔松尾君「いやいや、もう、いや」と呼ぶ〕

議長（西岡 正君） はい、松尾議員。

7番（松尾文雄君） そやからね、自治会長に連絡しとう、そもそも、そこがおかしい。それだったら、今度から自治会長に全部してもらいよ。そりゃ、確かに自治会長とテレビ組合と一緒にの所は、それでいいですよ。それ以外の所、テレビ組合が独自で運営している所に対して、何も連絡がないいう事になれば、そこまで自治会長言わはるんだったら、あんなら、自治会長にやってもらい。そこらの説明を、キチットせないかんやろ。何の連絡もないわけや。ほいで、今いろんな総会時期、そしたら、必ず今のテレビがどうなっとなやいう事を、4月から運用開始ですよというもとで、1月の末までに加入しなさいと。それをしないと加入金そのものも高くなりますよ。工事費も高くなりますよという説明をして来たわけでしょ。そこまでしときながら、今になってから、いや、それは自治会長さんに連絡しました。ほいで、後、そのできた所から運用開始するんですよ言うて、それは、騙したらいかんで。そこまで自治会長、自治会長言うんだったら、今度からしてもらい。テレビ組合に一切言うて来るなよ。そんな大きな間違いしたらあかんで。

議長（西岡 正君） はい。

まちづくり課長（南上 透君） すみません。いや、確かに申し訳ございません。自治会長、テレビ組合の役員さん所への連絡が、一部抜けておる所があると思うんですけれども、えらい、その点につきましては、大変お詫びを申し上げます。申し訳ありませんでした。今後、気を付けまして、進捗につきましても早速お話をさせていただきたいと思いますので、ご了解いただきたいと思います。

議長（西岡 正君） あれば、後ほどお願いします。
他に。

〔新田君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、新田俊一君。

2 番（新田俊一君） ONUを引き込んで、確かにテレビを4月1日から見れる所は、料金体系もいいんだけど、先ほど、ちょっと料金体系の事をおっしゃったわけなんですけども、各集落によって、電気やさんをお願いしとっても、1月の初めをお願いしておっても、1月の初めお願いしておっても5月になるとか6月になるとかいう事も往々にしてあるんじゃないかと思うんです。今、うちとこなんかでも、ほとんど、そういうONUが入ってませんから、今から全部して間に合うかも言うたら、それもおかしいんですよ。それで、料金体系かなんか、4月に入ったら、もうONUが付いたら払わなあかんのやというふうな事も、ちょっとお聞きしとんですけども、それはどのようにして確認されるんかね。もう、ONUから中へ宅内へ引き込んでから、料金なんかは対象になってくるんか、そのとこ、ちょっとお尋ねしたいんですけど。

議長（西岡 正君） はい、答弁願います。

まちづくり課長（南上 透君） 確かに、議員さんのご指摘のとおりでございまして、ONUを設置しますと、姫路ケーブルの方に連絡が入ります。それで、今度は、宅内業者の工事の手配をいたします。その中で工事が完了しますと、それ以降の話で、最低遅くても、翌月だったり、翌々月からの分になるという事ですわ。

議長（西岡 正君） はい、よろしいか。他に。

〔鍋島君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、鍋島裕文君。

21 番（鍋島裕文君） 先ほど、資料もろてないんで、ちょっとハッキリ聞いておきたいんですけども、大きな要因みたいな感じなんだけど、加入数、引き込み数の多少によって、総事業費13億7,500万円というのは、変動あり得る、つまり佐用、上月分のね、今年度の事業の中で、当初計画より加入数が違って来た場合にはね、それは、13億7,500万円の事業費も当然変わってくると、そうなるのかどうかの確認、そうなるんだったら、当初説

明は間違いだったのかという、この2点の答弁もろてないんでね、お願いします。

議長（西岡 正君） ちょっと答弁してください。静かにお願いします。

まちづくり課長（南上 透君） 申し訳ございません。結論といたしましては、この変更が出て来た場合には、変更があり得るという事になります。当初の分につきましては、それぞれ、そういう基本計画を見て、それで、数値が入ってますので、当然変更がないものというような解釈をさしていただいていたんですけども、現実には、こういう数量の変更の中で、変更して行くという事でございます。申し訳ありません。

議長（西岡 正君） はい、よろしいか。

はい、他に。ないようですから、質疑を終結いたします。

これより、本案について討論に入ります。討論ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですから、討論を終結いたします。

これより本案について採決に入ります。

議案第 69 号工事請負契約の変更について、原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって本案は原案のとおり可決されました。

日程第 29 . 議案第 70 号 佐用町職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例について

議長（西岡 正君） 日程第 29、議案第 70 号佐用町職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

提案に対する当局の説明を求めます。町長、庵途典章君。

〔町長 庵途典章君 登壇〕

町長（庵途典章君） それでは、ただ今、追加上程いただきました議案第 70 号佐用町職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例につきまして、提案理由のご説明を申し上げます。

この改正は、兵庫県立大学自然・環境科学研究所教員で、佐用町西はりま天文台公園の職員を兼職する者の定年が、公立学校教員の定年 65 歳の適用を受けるため、本条例においても、その者に係る定年を年齢 65 年として、第 3 条第 2 項として加えるための改正でございます。

ご承認いただきますように、お願いを申し上げ、提案の説明とさせていただきます。よろしく申し上げます。

議長（西岡 正君） 議案第 70 号の提案に対する当局の説明が終わりました。

これより本案について質疑に入りますが、ございますか。

〔質疑なし〕

議長（西岡 正君） ないようですから、質疑を終結いたします。
これより、本案についての討論に入りますが、ございますか。

〔討論なし〕

議長（西岡 正君） ないようですから、討論について終結いたします。
これより、本案についての採決に入ります。
議案第 70 号佐用町職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例についてを原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 挙手、全員であります。よって本案は原案のとおり可決されました。

〔山田君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、山田議員。

17 番（山田弘治君） この際、動議を提出いたします。
佐用町議会の議員の定数を定める条例の制定についてを、日程に追加し議題とすることを望みます。

議長（西岡 正君） ただ今、山田弘治君から、佐用町の議会の議員の定数を定める条例の制定についてを日程に追加して、議題とすることの動議が提出されました。
賛成の方、ございますか。

〔賛成者 挙手〕

議長（西岡 正君） 賛成者がありますので、成立いたしました。
佐用町議会の議員の定数を定める条例の制定についてを日程に追加し、議題とする事に、動議を採決いたします。
この採決は、起立によって行います。
動議を日程に追加することに賛成の方の起立を願います。

〔賛成者 起立〕

議長（西岡 正君） 起立、多数であります。よって、佐用町議会の議員の定数を定める条例の制定についてを日程に追加し、議題とすることに、動議は、可決されました。
ここで、暫く休憩をいたします。

午後 02 時 20 分 休憩

午後 02 時 35 分 再開

議長（西岡 正君） それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

日程追加．発議第 2 号 佐用町議会の議員の定数を定める条例の制定について

議長（西岡 正君） 追加日程第 1、発議第 2 号佐用町議会の議員の定数を定める条例の制定についてを議題といたします。

お手元に配布いたしておりますので、事務局より朗読をさせます。議会事務局長。

議会事務局長（岡本一良君） 発議第 2 号佐用町議会の議員の定数を定める条例の制定について、上記の議案を別紙のとおり地方自治法第 112 条及び会議規則第 14 条の規定により提出します。平成 19 年 3 月 26 日提出。提出者、佐用町議会議員、山田弘治。賛成者、森本和生。同じく片山武憲。同じく、岡本安夫。同じく、松尾文雄。同じく、川田真悟。同じく、大下吉三郎。同じく、石黒永剛。同じく、山本幹雄。同じく、敏森正勝。同じく、高木照雄。同じく、井上洋文。同じく、矢内作夫。同じく、新田俊一。同じく、石堂 基。同じく、岡本義次。

理由、佐用町議会議員の定数を削減するため、条例を制定する。

以上です。

議長（西岡 正君） 事務局長の朗読が終わりました。

発議に対する提出者の説明を求めます。

提案者、山田弘治君。

17 番（山田弘治君） ただ今、議題とされました佐用町議会の議員の定数を定める条例の制定について、提案理由を申し上げます。

地方自治体は、地方分権という大きな改革に迫られております。ご承知のように、国と地方の行政を見直そうという地方分権は、自治の自ら定めるという責任の範囲が拡大され、町民の代表機関としての議会の機能強化が不可欠であり、議員には、その認識は厳しく求められています。これらの情勢等を真摯に受け止め、議員は、一層の自覚のもと、議会改革の柱として、特に住民の関心が高い議員定数の削減について取り組み、議会の活性化につなげなければならないと考えます。

提案する議員定数削減を地方分権という流れを受けて、議論を交わすと、削減は、まさに賛否ともに正論と結論付けざるを得ません。この事は、地方分権社会に向けて、議会の存在感が重視される責任が格段に重くなる時に、住民の代表を減らす事は、議会の弱体化につながり、議会制民主主義の根幹をゆるがす重要な問題だという理念は、否定する事はできません。しかし、一方、地方分権社会に向けて、定数削減は、まさに時代の流れであります。今こそ議会人として、この厳しい状況をしっかりと受け止め、町民の信頼をおける議会を創造するため議会改革の一環として、議会定数の削減を決断する時であると思われる。

近年、隣接市町では、既に定数削減を実施している状況等勘案し、本町においても、町民の信頼に答えるべく、議員定数の削減について、佐用町議会議員の定数を定める条例の制定を行うものであります。

佐用町議会議員の定数は、22人を20人に改める。

以上の理由から議員定数の条例を提案するものであります。議員各位のご賛同をお願い申し上げます、提案説明といたします。

議長（西岡 正君） 発議に対する提出者の説明は終わりました。
これより発議に対する質疑に入ります。質疑ございますか。

〔鍋島君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、鍋島裕文君。

21番（鍋島裕文君） じゃあ、質問いたします。今提案がありましたように、定数問題というのは、議会制民主主義の根幹であります。重要な問題です。これは、異論のないところといえます。

それで、本来、この議員全員に係わる定数問題というのは、旧町議会、だいたいほとんどの町が、この問題を議論する時には、当然のことながら、全体で議論して、そして、方向を出して行くという、とりわけ丁寧なね、対応をして参りました。旧上月町議会の時もそうでありました。そういう経過からすればですね、昨年4月に合併時に確認された定数、元の数から6割減らした定数から、昨年4月に町議会議員選挙行われたわけでありまして、1年足らずの内にね、その選挙後1年足らずの内に定数削減を持ってくるというような事は、この議会制民主主義提案者言ってる根幹からしてね、これは、ちょっと十分な議論ができたと言えないんじゃないか。当然の事ながら、従来どおり特別委員会等作りね、十分に議論をして、結果としても、定数が影響するのは、それも次の一般選挙ですから、そりゃ、途中で解散になったら別ですけども、解散は一般選挙じゃありませんから、十分に時間があるわけでね、時間をかけて議論すべきだ。これは、提案者の議会制民主主義の根幹という事からして、当然だと思わんですけれども、その時間をかけて十分に議論をするという点では、どのように、提案者は考えてあるのか、お伺いします。

議長（西岡 正君） はい、提案者、山田弘治君。

17番（山田弘治君） この提案につきましては、先ほど、鍋島議員が言われましたように、特別委員会設置してする方法も、上月でもありました。私が、今回議会ルールに基づいて動議を提案させていただいておりますので、よろしくご理解のほどお願いしたいというふうに思います。

議長（西岡 正君） はい、よろしいか。

〔鍋島君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、鍋島裕文君。

21番（鍋島裕文君） 彼も旧上月の時のメンバーですから、特別委員会作った経過や議論の事は良く存じてね、そういう事知っておきながら、確かに、違法な提案と言ってるんじゃないんですよ。提案は、それぞれやったらいいんです。しかし、事の中身からしてね、やっぱり十分な議論が保障される必要があるんじゃないかという事で、単に言っておるわ

けで、その事を充分知っておられるんだったら、提案者はなぜ、今日やってしまわなきゃいけないというふうに、急がれるのか、その説明をお願いします。

〔山田君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、山田弘治君。

17 番（山田弘治君） その内容につきましては、先ほど、私が提案内容を申し上げましたとおりです。

議長（西岡 正君） はい、よろしいですか。
はい、他に。

〔金谷君 挙手〕

議長（西岡 正君） 金谷英志君。

6 番（金谷英志君） 提案説明の中で、議会の強化と活性化、一方で弱体化を心配されているんですけど、議会の強化それから活性化、これ定数削減によっておどのように強化されていくんでしょうか。

〔山田君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、山田弘治君。

17 番（山田弘治君） 先ほど申し上げましたように、提案説明の中で申し上げましたとおりです。

議長（西岡 正君） はい、よろしいですか。
他にないようでしたら、質疑を終結いたします。
これより、発議第 2 号についての討論に入りますが、討論ございますか。

〔鍋島君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、鍋島裕文君。

21 番（鍋島裕文君） ちょっと、こういう扱い事態がね、非常に問題だというふうに、最初に述べさせていただきます。

まあ、議員の定数に係わる問題というのは、旧町議会の時から議員全員に凶りね、特別委員会設置等の丁寧な扱いがされて来ました。これは、基本的には、どこの町も同じでありました。これは、定数問題というのは、議会制民主主義の根幹であります。この事からして、丁寧な扱いというのは、当然であります。

まず、この点がね、一番やっぱり問題点であるという事を指摘せざるを得せん。

第 2 は、合併時の確認事項は、定数 22 でその 1 年余りで、早くもその確認事項を削減するという事でありまして。では、合併時の元々の定数 6 割削減した確認事項というのはね、

あの趣旨は何だったのか、時間からして、今日やってしまうというのであれば、そう疑わざるを得ません。それから、第3に、元々54人であった、議員定数が6割削減の22人。これは、議会本来のね、責任、仕事、町民の多くの声、隅々の声をね、きちっと届ける、そして、十分な目を配ってね、十分な調査もし、町政の監視をきちっとやる。この議会本来の仕事を果たす上でね、やっぱり、現行の議員削減というのはね、これは、弱体化に繋がらざるを得ない言うんが、この点が、大きな問題だという事を指摘し、強行するのであれば、強く反対したい。このように思います。

議長（西岡 正君） はい、他に。
ないようですから、討論を終結いたします。

〔平岡君「議長、あります。反対討論ですけど、いいですか」〕

議長（西岡 正君） まあ、いいです。平岡きぬ糸君。

18番（平岡きぬ糸君） 賛成がないんですけど、反対討論します。いいですか。

議長（西岡 正君） 1人をお願いします。後は、こらえてください。

18番（平岡きぬ糸君） 討論は大いにやったらいいと思いますが。

議長（西岡 正君） だから、よろしいですから、どうぞ。

18番（平岡きぬ糸君） 平岡です。

この議案なんですけれど、議会のね、議員の定数を定める条例の制定という事で、出されている提出者が、議員のね、過半数以上占めるやり方としては、当然、数からいくと、通る数で出されてはいるんですけど、内容的に、今日、議会で初めて、動議という形で出されて、内容の重要性からしてね、こういうやり方をする事自体が、自分達の首を絞める事になるという事を、良く承知の上で出されているとは思んですけどね、町民がね、これ、全く知らないんですね。合併協議会で、先ほど、先の鍋島議員が反対討論で言われましたように、合併協議会の中で、議員の定数もちちゃんと図られて、合意の上で、今の現在の22という定数になっています。そういう点からしてね、こんなやり方をね、議員がやるというのはね、本当にね、ファッショ的ですよ。問題です。

私は、賛成する事できません。

議長（西岡 正君） 討論を終結いたします。
これより本案について、

〔岡本安君 挙手〕

議長（西岡 正君） はい、岡本安夫君。

13番（岡本安夫君） ちょっとバランスが悪いんで、賛成討論しときます。

あのですね、議員定数の問題、本当にこう、微妙ないろんな問題があると思います。私はずいぶん、合併後、合併が決まった時に、議員定数がどうなるんやという話をしました。

その中で、最高は 26 人までなんですけども、一応頑張って 22 人まで減らした形で合併しますと。54 人が 22 人になるんですよという説明もしました。その中では、合併しても、町のに 22 人というのはい多いなという声を一般の人からたくさん聞いたという事実はございます。それに、唐突であるというような指摘なんですけども、今まで旧佐用町です、私、何回か議員定数についての特別委員会も設置し、議論も重ねてきましたが、本質的には、この問題というのは、いくら議論しても考え方というのは、変わらないというのが、今までの経験上の結論であります。山田議員の提案理由にもございましたけども、やはり、これは近隣の市町でも見られるように、時代の要請であると思います。我々議会の方としても、その職員の適正化という事も主張しております。そういう中で、会より始めよではないですけども、議員自らが血を流し、こういう決断をするという事は、行政側にもいろんな事をプレッシャーを与える意味でも、この時期が重要ではないかと思い、賛成いたします。

議長（西岡 正君） はい、他にございますか。

ないようですので、討論を終結いたします。

これより、発議についての採決に入ります。

ただ今、議題となっております、発議第 2 号佐用町議会議員の議員の定数を定める条例の制定についてを、原案のとおり可決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者 起立〕

議長（西岡 正君） 起立、多数であります。よって本案は原案のとおり可決されました。

日程第 31 . 閉会中の常任委員会所管事務調査について

議長（西岡 正君） 日程第 31、所管事務調査についてであります。

お諮りいたします。

閉会中の各委員会の所管事務調査については、別紙のとおり申し出をいただいております。

別紙、申し出のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（西岡 正君） ご異議なしと認めます。よって、そのように決めます。

議長（西岡 正君） ここで町長の方より、本会議の中で、報告しなければならないという事がございますので、町長の方から報告されますので、町長の方から報告されますので、暫くご静聴にお願いしたいと思います。

町長、お願いします。

町長（庵道典章君） はい、議長、失礼します。

失礼します。国民保護法に基づく国民保護計画の策定につきまして、先般、議会まとめた計画書につきまして、議会の方で見ていただきたいという事で、お願いをしております。

した。それと同時に、これは知事の方にですね、協議をしなければならないという事になっておりまして、3月14日付けで県知事の方の了解が得られました。ここで知事の了解が得られた事をですね、議会の中で報告をするという既定になっておりますので、ここで報告をさせていただきます。

どうぞ、よろしく申し上げます。以上です。

議長（西岡 正君） 以上で、本日の日程は終了いたしました。
お諮りします。

これをもちまして今期定例会に付議されました案件は、全て議了いたしましたので、閉会いたしたいと思っておりますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（西岡 正君） ご異議なしと認めます。よって、第12回佐用町議会定例会は、これをもちまして閉会いたします。

午後03時56分 閉会

議長（西岡 正君） 失礼いたします。

閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。5日に第12回の佐用町議会が召集されまして、この3月議会については、住民の生活に即生活に係わってくる予算審議、重要な審議であります。その中、特別委員会を設置をしていただき、そして、慎重な審議をしていただきました。適切妥当な回答が得られたのではないかなと、私は思っております。本当にご苦労さんでございました。

また、町長をはじめ職員の皆さん方におかれましては、今予算委員会の中で、また本会議の中で、議員から出ました質問については、充分念頭に置いていただきまして、予算執行について、当たっていただきたいなと思っております。

最後に、動議でございましたが、議員定数についてもですね、これは、本当に減らす事が議会の弱体化、これも正に正論でありますし、また時代の流れとして、また住民の声として、削減をしていかなければならないという声も正論であります。そういう状況から見まして、私は、議長として、その質疑はできませんけれども、この兵庫県町の議会の中で、定数を見させていただきますと、22人の定数の町はありません。最高が20人でありまして、その20人の議会の中には、議員の町においては、人口3万人というような所もございます。そういう状況からして、先ほども鍋島議員の方からも出ましたけれども、1年前に決めた中で、今、なぜかという質問も、これもごもつともありますが、最終的に、明日から減らすわけじゃありませんので、今度の議会からという事でありまして、その点も、高く私は議長として評価をいたしております。どうか、大変難しい状況ではありますが、今後、住民の付託に応えていただきますよう、充分お願いを申し上げまして、簡単でございますけれども、閉会に当たっての挨拶にかえたいと思っております。

町長、挨拶申し上げます。

町長（庵逄典章君） 一言、お礼のご挨拶をさせていただきます。

3月6日から今日、閉会まで本会議そして特別委員会たくだんの3月議会はですね、一

般会計、特別会計をはじめ多くの提案をさしていただきました。慎重なご審議いただきまして、多くのご質問またご指摘も賜りました。この議会の通していただきました皆さん方の、そういうご意見またご指摘につきましては、予算執行に当たりまして、十分に反映をさせて、注意をしながら、執行して行きたいというふうに思っております。

そういう審議の中で、今日、全ての議案につきまして、提案どおりご承認を賜りました事を、改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

平成 19 年度は、新佐用町にとって、通年予算、2 度目の予算執行、行政運営になって参ります。非常に大事な 2 年目だというふうに思っております。非常に厳しい財政状況の中で、当然急がれて、大きな一番大きな課題であります行政改革を確実に進めながらですね、町民の皆さん方の付託に応えられるように、精一杯頑張りたいと思っております。予算執行に当たりましては、当然、又お認めいただきました予算、効果的に効率的に、これを執行できるようにですね、行政運営に最善の努力を重ねて 1 年、また頑張りたいと思っておりますので、皆さん方のご指導を、ひとつよろしくお願いを申し上げます。

本当に長時間に亘りましてありがとうございました。一言お礼のご挨拶をさせていただきます。